UFO contactee

GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFOと宇宙哲学の専門誌

コンタクティー

AUTUMN
1985

90

朝霧高原の不思議な"月"

旭川にも月擬装UFO出現

現在と未来の宇宙開発計画

アダムスキー問題の真実性と
宇宙哲学実践法——

UFO contactee　第90号目次

〈巻頭言〉テレパシー時代の到来 1
朝霧高原の不思議な"月" 伊藤達夫 2
旭川にも月擬装UFO出現 石川晴道 6
尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船 8
人間の想念に応答する植物 小川　隆 12
イエスと転生 星　香留菜 14
「ムーンゲート」第14章 現在と未来の宇宙開発計画（完） ウィリアム・L・ブライアン 16
アダムスキー問題の真実性と宇宙哲学実践法 久保田八郎 20
〈投稿欄〉ユーコン広場 30
〈報告〉各地支部大会 34
〈予告〉60年度地方支部大会（3） 36
〈予告〉60年度日本GAP総会 37
〈予告〉エジプト・エルサレム宇宙考古学の旅 38
〈広告〉アダムスキー全集／英文版Uコン 39
全国月例研究会案内 40

GAPとは

ＧＡＰは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がＵＦＯの真相について"知る"機会を与えられるべきであるという見地に基づいて１９５９年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて"コズミック・パワー"の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた"生命の科学"の研究と理解を通じて体得できます。

日本ＧＡＰの目的はＵＦＯとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

■表紙写真はウエスト彗星。
東京天文台木曽観測所撮影。

★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。
全記事・写真共他の印刷物への無断転載を禁じます。

〈巻頭言〉

テレパシー時代の到来

本誌88号に掲載した「驚異の高松市円盤降下事件」は依然として反響を起こしつつある。賛否両論のうち、日本GAP会員は圧倒的に信憑性を認める側にあるが、会員中にも半信半疑と言う人がいるらしい。その理由は、あれほどの大きな円盤が地上数メートルの超低空まで降下したのに、他に目撃者がいないのは不自然だということにあるようだ。

もっともなことだが、しかしあの事件についてはかなり深遠な意義が含まれていると思われる。他に目撃者が存在したかどうかは今もって不明だけれども、かりに存在しなかったとすれば、なぜ一少女だけに目撃させたかという問題が残る。

推測によると、こうだ。過去の多くのUFO出現事件を調べてみると、スペース・ピープルは、ある特定の人物を目撃者またはコンタクティーとして選んだ場合、何らかの理由で、その周辺の人たちには目撃させないような処置を講じることがあるらしい、という事実が判明している。ある人にはよくUFOが見えたのに、一緒にいた他の人には全く見えなかったという例があるし、だれかがスペース・ピープルらしき人を見かけたとき、周囲の人たちは何かの理由で、その現場からはずれていたという例もある。

アダムスキーの高弟であった故アリス・ウェルズ女史とカリフォルニアのヴィスタで編者が対談したとき、アダムスキー存命中の頃、深夜にときどきスペース・ピープルが家に立ち寄ってコーヒーを飲みながら二人で対談するのだが、そのことはわかっていながらも、自分はひどく眠くなって熟睡してしまい、起き上がって彼らの部屋へ行くことはできなかったと述懐していた。どうやらスペース・ピープルがアリスや他の人たちを何かの方法で眠らせてしまうらしい。

高松事件も目撃者は幼い奈生ちゃん一人で充分だったので、付近一帯の住民がそのときに限って家から外へ出たり窓から外をのぞいたりしないような特殊な処置を円盤側で施したのかもしれない。

なぜ奈生ちゃん一人で充分だったのか？　この理由は二つ考えられる。一つは、もし付近の住民が円盤を見た場合、あまりに接近しているのに動転し、恐怖のあまり物体に関してひどく歪曲した話をするかもしれない。大きな気球が飛んできたとか、目撃しながらも見なかったと証言する人が一人でもいれば、結局、奈生ちゃんの目撃は何かの誤認か、それとも心霊的な幻覚だと片づけられるかもしれない。

こんな例はよくあるのであって、だからこそUFOは出現する場所と人間を選ぶ場合が多いと思われるのである。

二つ目の理由は、円盤側が目撃者を一人に限定して、この事件の真実であることを見抜くテレパシックな、または宇宙的なカルマを持つ人とそうでない人とを飾い分けたとも考えられるのである。というよりもテレパシーにたいする意欲を高めるように仕向けたのかもしれない。

一方、傍証がなければあの事件を真実と断定する根拠が不足しているではないかと言う人があるだろう。あの事件の記事を読んでただちにGAPを去った人もいる。幻覚かインチキだと思ったのだろう。

だが高松事件の正解はいつか出てくるだろう。

物証がなければ信じられない、または信じてはならないというのが地球世界の風潮である。犯罪捜査もこの線で進められるし、判決も大体にこれで出される。これは功罪相なかばするが、根本的には一般地球人がテレパシックな生き方をしていないからこそ傍証を得ようとするのである。

テレパシーを駆使する偉大な惑星の人々の世界は、地球人のそれとは全く次元の異なるものらしい。といってそこは霊界ではなく、われわれと同様の肉体を持つ生きた現実の人間の世界である。地球でひそかに暮らしているスペース・ピープルは外見が地球人そっくりなので見分けがつかず、だれも気づかないという。

しかし、それらしい人を感知する方法がある。それはテレパシーである。別な惑星から来た人であることを識別できる物証などはないので、超常能力的な感知によって察知する以外に方法はない。宇宙的なテレパシックな能力を有する人にたいして、スペース・ピープルは何らかの応答をするので、それでわかるはずだ。その場合、「あなたは別な惑星からいらっしゃった方ですか？」と、言葉を口に出さずに心中でそのような想念を発して質問するのだ。本物ならば微笑してうなずくか、何かの意志表示をするだろう。この実例は少なくない。

テレパシー能力の開発！　それは個人の生活を根本的に変えるばかりか、地球世界に大変化をもたらすだろう。来世紀には人間の精神上の改革によって、人類がテレパシックな宇宙的人間を目指す機運が生じるかもしれない。

テレパシー開発は容易ではないが、全くの不可能事でもない。アダムスキーの著書を丹念に読んで、それなりのトレーニングを忍耐強く続けるならば、緩慢ながらも少しずつ能力が出るようになるのだが、一般地球人は、そんな能力は存在しないと思い込んでいるから、そう思っている限り自己の内部に潜在する能力は眠っているのだと、右の著書で説明してある。

知力や技術だけに頼る時代はすぎてしまい、物理学は最近超常に向かいつつあると、その道の学者は説いている。またデヴィッド・ロイらの新心理物理学では、テレパシックな予知法に関する科学的な研究を行っているという（ロイ著『スフィンクスと虹』青土社）。またアメリカのカール・プリブラムらが起こしたニューサイエンスも宇宙の万物一体性をホログラフィーの理論を基盤にして説いている。アダムスキーの宇宙的哲学やテレパシー理論は科学的脚光を浴びる方向にあると言えるようだ。

朝霧高原の不思議な"月"

●伊藤達夫

第七回目を迎える静岡支部大会が富士山を間近に仰ぐ富士市で開催され、私も松山支部の方々と共に参加させていただきました。大会は今回もまたまた大盛況で、終始会場には久保田先生のご指導のもとに高貴な波動が満ちあふれておりました。

大会の直前に発行された日本GAP機関誌『Uコン』第89号には静岡支部の方々による朝霧高原での素晴らしいUFO目撃体験が報告されています。

大会の夜の度重なるUFOの出現

日頃、定期的に自宅の狭い庭に出て天体観測をしている私は、機会があれば一度UFO出現のメッカである富士山一帯で観測をしてみたいと思っていました。今回の大会が丁度富士市で開かれることでもあり、良い機会なので早速実施してみようと思い立ちました。ホテルの七階の部屋から眺めると正面に富士山がそびえ、観測にはまたとない絶好の条件です。

夜の十時過ぎから二十分間という比較的短い時間でしたが、スペース・ピープルの皆様に想念をお送りし、日頃のご援助に対するお礼と明日の静岡支部大会のご指導をお願いしました。その結果、ネオンの光で見にくいハンディはありましたが、送信中に三度の出現がありました。その前々日に自宅の庭で静岡支部大会の大成功をお願いする想念をお送りしたときにも上空に白銀色の光体が出現したので、これで大会はきっと大成功になると思いました。

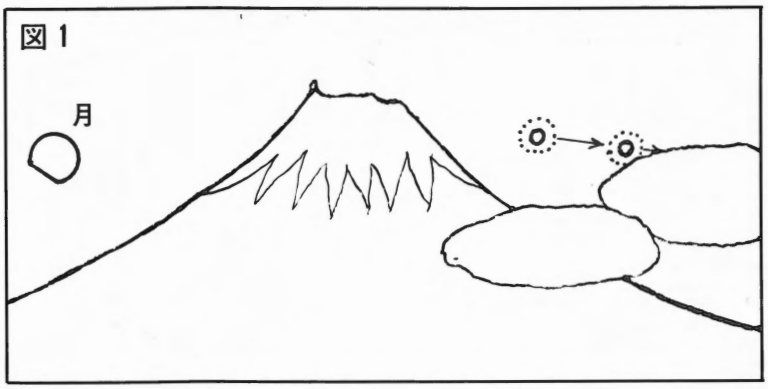
翌日の大会は予想通りの大盛況裡に終了し、加えて三次会の際中には、ふと店の外に出られた野口敏治氏が上空を金色に輝く光体がゆっくり移動するのを目撃されています。更に三次会を終えて一同が外へ出た時、数名の会員がまたも上空に白銀色の光体が出現したのを目撃しました。そこで私は「今夜も観測すればかなり出現して下さるかもしれない」と思い、自室に戻ると深夜の一時半から二時までの三十分間、支部大会の大成功を感謝する想念をお送りしてみました。すると予想通り、はっきり確認しただけでも五回の出現がありました。

まず送信を開始してから二分後、左上空をホテルの屋根をかすめて白銀色の光体が出現。その二分後には正面方向をやはり白銀色の光体が右から左へ移動。その五分後には左上空をやはり白銀色の光体がカーブを描いてホテルの屋根に隠れました。さらに五分後には富士山のふもと付近から白い球体が長い尾を引いて市街地を横切り、途中でホップしながら左方向へ急速度で移動していきました。その三分後には、今度は見かけ上、富士山の七合目あたりと思われる方角にオレンジ色に輝く光体が出現、静止し、約五秒間強い光を放ったあと姿を消しました。そのほか小さな光体も数多く出現していたようですが、はっきり確認するまでには至っていません。

あとでわかったことですが、私が観測していたのとほぼ同じ時間帯に東京の石田義雄氏も自室で観測をされたそうで、七回目撃したということです。二人が同

富士山付近のＵＦＯ

時に観測したことでＵＦＯ出現の客観的な裏付けが得られたと思います。おそらくスペースピープルの方々は、静岡支部大会の成功と日本ＧＡＰ創立二十五周年を喜ばれて、祝福・激励のために出現して下さったのでしょう。それをたまたま石田氏と私が目撃したのではないかと思います。



大会翌日の富士山麓観光に出かける朝、またもやＵＦＯの出現がありました。国鉄富士駅前のホテル・サンライズフジの八階にあるレストランで朝食をとっていると、秋田の佐藤春雄氏が突然「あれは何だ!?」と叫ぶのでみんなが一斉に窓の外に目を向けると、富士山の頂上の少し右側にピカッと金色に輝く物体が非常にゆっくりと右に移動しているのが見えました（図1）。朝の太陽の光に白い積雪をくっきりと浮かび上がらせた富士のそばをまばゆい光体が行く光景は、一種壮厳な感じさえしたものです。その物体は約一分後に近くに漂う雲の背後に入っていきました。あとで静岡支部の方に聞きますと、あの付近では飛行機は絶対に飛ばないのだそうです。目撃したのは佐藤春雄氏、佐藤忠義氏、佐藤和枝さん、佐々木朋子、智子姉妹、井川博文氏、小島岩男氏、伊藤達夫その他の皆さん方です。

山麓観光では、バスが朝霧高原に着く直前に富士の八合目あたりから、突然黒くて丸い物体が飛び出して付近の雲の中へ入っていくのが見えました。

広島にも奇妙な〝月〟が出た

市内観光を終えて帰宅したその翌日、広島の佐々木さんから電話がかかってきました。

「伊藤さん、静岡では大変お世話になりました。どうもお疲れ様です。ところで広島へ帰った夜また空にお月さんが出ていました」。その言葉に思わず「え!? それはいったいどういう意味ですか?」と私は聞き返しました。

「ですからね、またお月さんが上に出たんですよ。観光で行った朝霧高原の上に月が出ていましたよね。あのお月さんが同じ日の夜にまた出たんです」

彼女の話す意味がわかるにつれて私は一瞬絶句してしまいました。常識では考えられない事が起こったからです。要するに一日のうちに月が二度も空に顔を出したということなのです。物理現象に反する出来事が現実に起こり得るものなのか。わが耳を疑ったものです。

「広島駅には夜の十時頃に着き、そのあと九州に帰る光井さんをホームで見送っていた時に、フト上を見上げると月が輝いているんです。それを見た途端に『あれ!?』と気がついたんですね。朝霧高原の上に月が出ていたのは見て知っていたものですから、あれから十時間後の広島の空に月が出るのはおかしいと思いました。それで騒ぎ始めたんです。それに高原で見た月はたしか上部が丸くて下が少し欠けた七分月だったのに、広島では半月で、上部が欠けて下が丸くなっているのでよけい驚いてしまいました」（図2）

実に不思議な事があるものです。月の動きを物理的に見ますと月の出から月の入までに要する時間は約十三時間半ですから、朝霧高原の上に出ていた月が十時間後に広島でまた上に出ていることは考えられません。まして形が違ったり、上が下になったりすることはまずあり得ないことです。しかし実際にそのような現象が起こっているわけで、一体これをどう説明すればよいのでしょうか?

朝から出ていた〝月〟

この不可解な電話を耳にした時、私は富士山麓観光の朝の出来事を思い出しました。その日、目が覚めると外は日本晴れの素晴らしいお天気でした。なぜか内部から祝福と歓喜の想念が湧き起こってくるのです。「今日はスゴイ事が起こるに違いない」と、その時思いました。窓の外に見える富士山の美しい姿につい双眼鏡を向けたくなって眺めていました。

そして少しレンズを左へ移動させてゆくと突然白くて丸い物体が視野に飛び込んで来ました。「なんだろう?」と思ってよく見ると、それはお月様だったのです。富士山の少し左に寄った所に白く浮かんでいる月。上が丸く下が欠けた七分目の月が北北西の方角、朝霧高原のちょうど上のあたりに浮かんでいるのです。時刻は朝の八時頃でした。それはまぎれもなく月でした。日頃昼間の空に白く浮かんでいる月と何ら変わるものではありません。ウサギがモチをついている姿までくっきりと浮き出ているのです。不審な点は全く見受けられませんでした。た

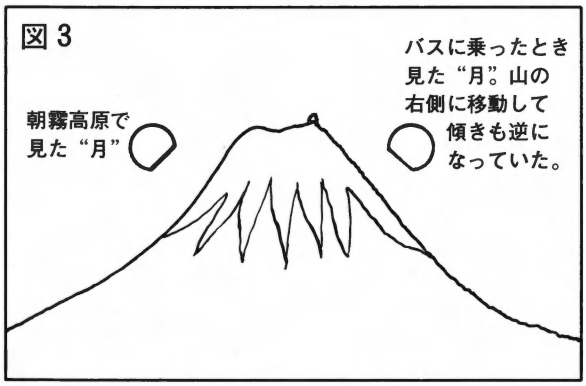
だ最初にその月を発見した時は「なんであんなところに出ているのだろう」とけげんな思いにかられたのは確かですが、いつでも見かける平凡な光景でしたからあまり気にとめないで、そのまま月のことは忘れてしまっていました。まさかあの月がその場にいるはずのない〝幻の月〟だとは夢にも思っていなかったのです。しかし後になって、本当のお月様はその時刻には東の地平線のはるか下方にいたことがわかりました。

本物の月ではなかった！

とにかく佐々木さんの電話を受けて不思議な気持ちにかられた私は早速事の真相を確かめようと、静岡の気象台に電話をかけて聞いてみました。観光当日の月の出と入の時間がわかれば、事実関係がはっきりすると思ったからです。気象台の人は親切にデータを調べて下さいました。それによりますと、四月二十九日㊊の静岡地方の月の出は正午、月の入は三十日の午前一時三十七分であることがわかりました。聞きついでに「二十九日の朝、富士市の駅前のホテルから見ると富士山の少し左側に月が出ていたのですが、そういうことはあるでしょうか？」と尋ねますと担当の人は驚いた様子で、「あの日にその時間帯に富士山の左に月が出ることは考えられません」と当惑した様子で語っていました。その日の正午でないと地平線に姿を見せないはずの月が、朝早くから出ていたというのですから、気象台の人も意外な問い合わせにびっくりしたのだと思います。

この気象台の客観的なデータによって、あの朝、あの方角と時間に月が出ることは全くあり得ないことがわかりました。つまり私が見た月は本当の月ではなかったのです。それにしても、どこから見ても月としか見えないあの不思議な物体の正体は何だったのでしょうか？

その日、GAPの一行がバスで朝霧高原に着いて間近かにそびえる富士山を眺めながらひと時を過ごした際にも上空に白い月が出ていたのを多数の人が目撃しています。久保田先生も天頂付近にはっきり見たと話しておられました。富士の近くの空にお月さまが浮かんでいるという何の変哲もない光景にほとんどの人は疑問を差しはさまなかったに違いありません。



しかし、この〝不思議な月〟は実は人工物体としか思えない奇怪な動きをしていたことがわかりました。何とはなしに月を観察していた佐々木さん達の報告によりますと、みんなで高原にいた時には富士山の左側に出ていた月が、間もなく一行がバスに乗り込む時に見ると、富士山の右側に移動しており、しかもその傾き具合いも正反対になっていたというのです（図3）。明らかに人工的な意志を持って動いたとしか考えられないこの月の正体は何か？　謎は深まるばかりです。

月に擬装した円盤か!?

ただ確実に言えることは、この日、早朝から不思議な月が朝霧高原の上空に何時間も滞空しながらGAPの一行が来るのをじっと待っていたということです。そして高原でみんながくつろいでいる様子をじっと上から見守っていたのです。おそらくこの幻のお月様はGAPの一行が高原を立ち去るのと前後してその姿を消したのかもしれません。なぜなら、まもなく本当の月が富士山の左の山すその上に姿を出すことになっていたからです。

その夜は昼間の月とバトンタッチした本当のお月様が朝霧高原一帯を皓皓（こうこう）と照らしたことでしょう。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

編者付記　静岡支部大会の翌日、富士山麓周遊の観光にバスで富士駅前を出発したのは朝十時だった。前日の曇り空とは打って変わって一点の雲もない快晴で、大自然の祝福のフィーリングに満ちているような日であった。

五十六名の乗る大型バスは碧（へき）空に映える白銀の富士山をまじかに仰ぎながらまず田貫（たぬき）湖で小休止し、湖畔を散策後、十一時三十分頃にここを出発して朝霧高原近くのグリーンパークで昼食をとり、当日のメインの観光地朝霧高原に着いたのは十二時四十分頃であった。

この高原は静岡支部の六名のメンバーが一昨年十二月十日の夜、厳寒にふるえながらテレパシーで上空に呼びかけて、連続四十機以上もUFOが出現した場所なので、一同はこの意義深い土地を特に選んで下車したのである。その時刻は十二時四十分頃だった。

名峰富士が優美に眼前にそびえている。バスを降りた私はまず上空を見上げた。UFOらしき物は見えないかなと思い、双眼鏡を目にあてたりはずしたりしながら見渡すのに、天頂付近の白く薄い月以外には何も見えない。双眼鏡で月をのぞくと、下側が少し欠けた月面の黒い〝海〟があちこちぼんやりと見える。

この月を観測した時間は約十秒ぐらいで、すぐに富士山の頂上へ対物レンズを向けて、しばらく眺めていた。紺碧の空に大きく浮かび上がる秀峰は、まったく溜息（ためいき）が出るほどに美しく、感傷的にさえなってくる。エジプトのピラミッドと同じで、写真を何百枚見るよりも本物を近

●朝霧高原における日本ＧＡＰ観光団。(上空から円盤が見おろしていた？)
前列左より４人目が野口静岡支部代表、６人目の登山帽が編者。２列目中央の濃紺ネクタイが筆者・伊藤達夫氏。

くで目撃しないことには雄大さを実感できない。しかも晴れた日でも富士山頂はいつも雲の笠をかぶっている場合がほとんどなのに、こんなに輪郭が鮮明に見える日は珍しいのだと地元の人たちが言う。観光団はみな一斉にお山を注視し、秀麗さを讃えている。なかには初めて富士山を見たという遠来のお客さんもあって、一行は佇立して動こうとしない。

結局ここで約一時間をすごし、去り難い思いにかられながらバスに乗ったのは一時四十分頃だった。連休なのに観光客は意外と少なくて、あちこちで家族づれが遊んでいる程度だ。

バスに乗る前に私はふたたび頭上を仰ぎ見た。このとき一時間前に見えていた月が見あたらないような気がしたが、別段気にとめずに乗り込んだ。

結論を述べると、なんとこの〝月〟がＵＦＯだったのである！　その理由は前出の伊藤氏の記事で明白となってくる。編者（久保田）は後日この問題で伊藤氏や篠氏、野口氏らと何度も論議し、天文学関係の資料を調べたり、伊藤氏は静岡気象台に照会し、編者も天文関係機関に問い合わせたが、朝霧高原であの時刻に天頂付近に月が出ることは絶対にあり得ないことが判明したのである。しかも伊藤氏は同日の朝も月を見ているのだ。

これがいわゆる円盤だったとしたら、なぜ月に擬装して出現したのか？　数名で討論した結果、一同のテレパシックな能力を試そうとして故意に月に見せかけたのではないかという結論に達した。別な惑星から来た本物の円盤ならば、これぐらいの擬装は朝飯前であることを、数年前にある場所で壮絶な体験をした編者はよく知っている。フォースフィールドやその他の方法を応用して船体を雲のように見せかけたり、透明な状態にしたり（実際は船体が透明になるのではなく、人間の目にそのように見えるだけだが）、本誌88号に掲載した高松市の円盤のように船体の外に美しい巨大な〝ネックレス〟を作り出しては消滅させたり、その他、地球人の想像を絶した〝芸当〟がやれるのだ。

だが私たちは富士山に目を奪われてしまい、夢中になりすぎたために、上空の〝月〟を円盤だと見抜くことはできなかった。四つの感覚器官（目、耳、鼻、口）をコントロールしてセンス・マインド（心）を内部の宇宙の意識と一体化させよというアダムスキーのテレパシー理論の重要さをあらためて痛感した次第である。

それにしても月の出や入その他の天文学上の予備知識を持って旅に出かけることの重要さも考えさせられた。天文年鑑の本年度分、双眼鏡、望遠ズームレンズ付きのカメラ等、七つ道具一式を携行するとよいのだが、カメラは35㎜一眼レフにズームレンズを装着すると、かなりの重量になる。ハーフサイズの超軽量小型機が復活して、優秀なズームレンズと共に市場に出ることを切望してやまない。

とにかくあの不思議な〝月〟を撮影した人が一行中に一人もいなかったのは残念だった。もし撮影して大きく伸ばせば普通の月とは違うことがわかったろうに。

旭川にも月擬装UFO出現

石川晴道

本誌第88号に掲載された『驚異の高松市円盤降下事件』といい、四月二十九日、静岡支部大会翌日の富士山頂上空に出現した、月に擬装した円盤といい、これらは日本GAPに対する偉大なる宇宙の兄弟たちからの限りない祝福と激励のメッセージにほかならないと思う。

後者について言えば、実は一九七八年七月、北海道旭川市東鷹栖町において同じ様な月に擬装した円盤が出現したのである！　当時私は旭川支部設立にむけて積極的な行動を展開し、周囲にUFO問題に関する情報を広めていたがその結果、会員の山内さんを始めとする、アダムスキー氏とGAPを支持する数名の人達とUFO共同観測を実施することになった。

その日は雨模様のぐずついた天候であったが観測は朝十時頃から夕方六時半過ぎまで続けられた。観測地は私の自宅から車で十五分程度の所であった。その場所ではかつてUFOを十数回目撃したことがある。

午前中は雨が降ったりやんだりで、なかなか車の外に出られなかったが、午後一時頃から空も明るくなって、ようやく観測を開始することになった。

午後二時半頃雲の合間からUFOらしき光体が出現！　何人かが発見して大騒ぎになった。そしてその直後、今度は私の立っている頭上を超低空で巨大な光が走った。それも薄雲り空の上からライトを照らすかのようにである。しかも三回くり返して同じ方角から（ほぼ北から南へ）三回くり返して行われた。残念なことに一瞬の出来事で、また私一人だけ離れていたため、目撃を実証する人はいなかったが、今でも映像化して再現することができる。

夕方五時頃になって月が現れ始めた。みんな円盤着陸を期待しての行動だったが時間も時間だし……という気持ちでいた様子だった。ところが突然、約四～五メートル右側にもう一個の月が出現したのだ！　ちょうどUFO写真を撮ろうとして三脚まで用意していた仲間の一人にカメラに収めるようにお願いした途端、左側の月が消えてしまった。

いったいこれはどういうことなのか？　私にはこの不思議な現象を理解することができなかった。おおよそ西側に現れた二個の月であったが、消えてしまった左側の月の方は大きさは同じだったが、色が本物に比べて少し薄く、光り具合いも弱かった。

今回静岡に出現した月に擬装した円盤と同一の物ではないだろうかと思うほどである。結局当時、初めに月に見せかけて円盤が出現して私達の方を見ていたがそれに気がつかないでいた。そして本物の月の出現によって円盤が去って行ったことになる。ということはスペース・ピープルはあえて私達の計画を知っていて月の出る時刻と天候を計算して一般の人達に気づかれないように出現して下さったことになる。

それから約一週間後、その時の仲間の一人と一緒に同観測地に夜八時半過ぎ出かけた。そうしたところ星も出ていない真暗闇の中に突然二個の光る球体がリズムをとるかのようにポンポンと出現したのであった（片方の球体が半テンポ遅れた状態）。車のライトとは全く相違した球体は明らかにUFOであると確信が持てた。さらに数本立っている木の上を左から右へゆっくりと移動してパッと消えてしまった球体が現れたのだった。

前者の二個の球体の大きさはソフトボールの2～3倍程度だった。後者は星より少し大きかった。

これら一連の出来事の背景には根拠があった。それは私が興味本位でなかったこと、そしてこれらの出現が旭川支部設立に期待するメッセージにほかならないと思われたからである。

イスラエルに出現した巨大な〝月〟

私の知人であり友人でもある「ゴダイゴ」のリーダー、ミッキー吉野氏から聞いた話によると、海外コンサート・ツアーに出かけた際（「ビューティフル・ネーム」等が大ヒットした年）、イスラエルを訪問したそうだが、昼間地平線沿いに巨大な月が出現したのを見たそうで、通常の月ではなく別の存在であることが判別できたということである。当時のイスラエルは戦争の激しい状態にあって、無事に日本に帰ることが出来れば良いなあと思っていたところ、巨大な月の類似物を見ることになったそうだ。

おそらくその類似物はUFOの可能性が強いとみている。考えられる原理は、静岡と旭川の時も同じだと思うが、円盤の特殊技術によって人工雲のようなものを放ち、その中に円盤を隠して外観を月とそっくりの状態にすることができるのだろうと思うのである。たぶん母船ではなかったのだろうか？

ミッキー氏は滞在中、メンバーと一緒に上空を行くUFOを目撃したとも言われた。それに付け加えて、氏は以前米国のバーグリー音楽院在学中何度もスカウト・シップを目撃したそうである。日本においてはコンサート終了後、夫人とタクシーで帰宅する途中UFOが後から追いかけてくるという出来事もあったこと、さらには、湖のほとりに腰をおろしていたところ突然ザバーッと水しぶきを上げ

て飛び立っていった円盤を目の前で目撃してびっくりしたということも三年前話してくれた。

ミッキー氏はとても謙虚なあたたか味のあるやさしい人柄のピアニスト兼作曲家としても有名である。よくテレビ番組の音楽も担当している。また氏をとりまく人々の中にUFO問題の真相を知りたがっている人達が数名存在する。その人たちの人柄もやはり謙虚なミュージシャンで目が明るく輝いて見えるのである。

スペース・プログラムと転生

過去数十年活動を続けてきた各国のUFO研究グループは今や減少の一途をたどり、かつてアダムスキー師が期待していた米国グループも停滞ぎみという現状にあって、私達のこの日本GAPという団体が世界のトップクラスの研究団体として今もなお加速中であることにスペース・ピープルが期待を寄せられるのは無理からぬことであろう。このことはある体験によって私自身もはっきりと確信することができた。

これからの国際情勢は表向きの米ソ対話の平和交渉にかくれて経済・金融市場の行きづまり、そしてポール・シフトの問題が浮上してくる。現在深刻化しているアフリカの干ばつ状況を新聞・テレビその他で知っていることと思うが、それよりもっと深刻化した問題が起こりつつある。私達のスペース・プログラムはそのことを知った上でのプロジェクト・チームを必要としているのである。少なくとも私はそのチームの一員でありたいと思っている。

本誌第89号の遠藤昭則氏の『金星文字解読研究』の記事を読んでみてもわかるように、宇宙の法則を探求しようとしない者には絶対に理解できないのが金星文字である。遠藤氏のことは本部月例会のテレパシー練習等でおなじみのことであろうが、何よりも氏の誠実さと謙虚さがオーラ透視、金星文字解読を可能にするのであって、通常の世間一般の科学者たちがどんな資料を分析研究しても超能力の真髄に迫ることはできないだろう。

最近、GAP内部で、もしも空飛ぶ円盤を自主製作しようと真剣に考えるならすべて可能ではないのだろうか？と強く思われてならない。会員の職業をみても今現在、宇宙開発の研究員として仕事にたずさわっている人や設計者そしてコンピューター技術者、その他芸術家、作家、医師、教師と各々の分野でみな頑張っているのを見ても実にバランスがとれていると思うのである。やる気さえあれば宇宙の英知とスペース・ピープルのご援助によって全く可能ではないかと思うのである。こんなことを言うと何かの狂言団体のように解釈したり攻撃してくる現実主義者と自称する者たちが存在するものだが、そういう彼らは理解力の欠乏者なのであって気にすることはない。

私達は宗教団体では絶対にない。まぎれもなく宇宙計画（スペースプログラム）に参加していてNASAよりははるかに近隣惑星のことを理解している研究グループである。そして、その研究内容にしても生命そのものから出発するという科学集団なのだから「転生」すなわち「復活」についての認識は宇宙の法則という観点からとらえたところの「奥儀」を旧約聖書以前に求めることができるのである。

あるインフォメーションによると久保田先生は別な惑星からGAPの任務を遂行するために地球に転生してきたということだが、それに加えて、自分が他の進化をとげた高度な文明を持つ惑星から、宇宙計画の一員として転生してきて、その目的を達成しつつあるのだと自覚できる人はスペース・ピープルそのものなのだ！

また、本人は気がつかないでいるがやはり進化をとげた惑星から転生してきた人々が少なからず世界中の何処かに存在するはずである。ちょうどJ・シュトラウスが当時戦争と貧困にあえいでいるオーストリアにあって希望の光を与えに金星から転生してきて後に再び金星に帰って（転生して）いったという話を聞いたことがあるが、かつてのビートルズのメンバーで全世界に大センセーションを起こしたジョン・レノンもその一人であると確信している。

アダムスキーを支持する有名人

彼はアダムスキー師のことをよく知っていたし、実際に円盤に乗って他の惑星社会を訪問した可能性が強いのである。夫人のヨーコ・オノさんは亡き夫の代理人としてグラミー賞受賞式の席上、聴衆に向かって「皆さん、ジョンは今も皆さんと共に生きています。彼は死んではいません。この栄誉を大変感謝します。今こそジョンの音楽を地球人類の平和のために、そして全宇宙の平和のためにささげます」と挨拶をしたのであった。たしかにジョン・レノンの作詞の中に「仮にUFOがニューヨークの街に降りてきても別に驚きはしない……」という一節がある。

日本の芸能界においても少なからず宇宙志向の人々が存在している。最初に述べたミッキー氏のことは言うまでもない。他に面識はないが俳優の大和田信也氏などはUFOを見る度に「人類の平和のために何かしなくては」と思うそうだ。

私と同じ郷里出身の人気バンド、安全地帯のリーダー玉置氏とリード・ギターの武沢氏などはアダムスキーの体験を支持していて、観測もよく試みた人たちである。二人とも信念の強い持ち主である。

何ごとも恐れないこと！　これが信念をつらぬくことにつながり、成功への近道になるのだと私は思う。だからと言って全く無防備では危害が及ぶこともあり得る。だから「ハトのように隠和に、ヘビのように賢明に」というアダムスキー師の言葉が必要になってくるのである。

地球上で生きる上では誰もがいやな苦い体験をするかもしれない。そんな時こそ気軽に語り合える友情の輪があればどんなにかお互いを激励し合えることか——。

「すべては創造主なる父と共に歩まんことを」。そして今一度自分達のなすべきことを自覚したいものである。

尾道市に出現した円盤と母船

アダムスキー型

今を去る十一年前のことで少々古い話だが、広島県の尾道市にアダムスキー撮影の円盤と全く同型のＵＦＯが出現し、高校生が撮影するという大事件が発生した。この件は、当時編者が別な出版社から発行していた全国書店向ＵＦＯ専門誌に詳細な記事と大判カラー写真二点を掲載して大反響を起こしたのであるが、その後当時のＵＦＯブームが下火になって以来同誌は廃刊となり、この事件も忘れ去られてしまい、ご存知ない方も多いと思うので、ここにあらためて紹介することにした。これは当時アダムスキーの体験を真向から否定する人たちにショックを与えた大イベントであった。

尾道は広島県東部に位置する、瀬戸内海沿岸の港町である。昭和四十三年に向島とのあいだに尾道大橋が開通して発展の機運が高まった。平安の荘園時代から港として発達し、千光寺、西国寺、浄土寺など由緒ある寺院が山沿いに多い。志賀直哉や林芙美子らの小説の舞台にもなっている。

この町の丘陵地帯にある栗原町の一角に藤松学さん一家の新築した家屋が建っており、この二階に息子さんの和彦君の部屋があった。当時広島県立尾道工業高校化学工学科一年だった同君は、七四年（昭和四十九年）十月十一日の早朝、六時二十五分頃に目を覚まして、そのまま横になっていた。

そのとき急に胸騒ぎが起こってきた。一種の不安な気持にかられてイライラしてくる。体調はよいのに頭が普通ではない。どうしたのだろうといぶかりながら起き上がって、ふと南側の窓をあけてみた。六時半頃だ。

すると南東の千光寺山の上空に細長い黒い物体が浮かんでいる。最初は静止しているように見えたが、徐々に動きだした。初めは飛行機かと思ったが、よく見ると翼がない。これはいわゆるＵＦＯかと急に胸が高鳴ってきた。

物体は見かけ上、長さ約四十メートルぐらいで、無音のままゆっくりと北西に向かって飛んで行く。

和彦君はとっさに机上にあったカメラをつかんで撮影した。学校の運動会のときに使ったフィルムの残りが入っていたのは運がよかった。16ミリフィルムを使うコダック・インスタマチック20だ。

続けて二枚写すと、巨大な黒褐色の葉巻型物体は北西の久山田上空に消えていった。目撃した時間は約四十秒である。

ところがその物体が見えなくなってからすぐに今度はその方向から逆向きに帽子型の物体が出現した。同君はその頃アダムスキー問題をよく知らなかったために、「帽子型円盤」と言っていたのである。

この物体も無音のままゆっくりと飛行したので、同君は続けて三枚撮影した。約五十秒間見たあと、円盤は北西の方向に消えた。

「えらい物を見たのう！」と同君は恐怖感におそわれた。何かよくないことが身に生じるのではないかと一瞬気になり、驚異と不安でいっとき呆然となったが、とにかくフィルムをＤＰ店で現像してもらうと、たしかに目撃した二種類の物体が写っていた。

八日後に二度出現！

当時ＵＦＯ問題についてほとんど関心も知識もなく、テレビでＵＦＯ番組をちょっと見た程度だという藤松君は、この写真を八日後の十九日に学校へ持っていって級友たちに見せた。

反応はさまざまだったが、強い関心を示したのは同級生の高良輝久、砂田邦政、向井芳臣の三君である。これは本物の円盤だ、母船だなどと騒ぎだしたので、藤松君もやっぱりＵＦＯを写したのだとしだいに自信がついてきた。

同日学校は午前中で終わったので、高良君が藤松君の家へ遊びにやってきた。午後一時半頃、二人で仲良く昼食をとっていたとき、またも藤松君は胸騒ぎを感じて心臓がドキドキしてきた。

「この前と同じ状態になった。また円盤が出るかもしれんのう」

二人は大急ぎで二階へ上がり、同じ窓から上空を見ると、十一日に見たのと同じような黒い円盤が飛んでいる！

このときはカメラにフィルムが入っていなかったために撮影はしなかった。

そのあと砂田邦政君と向井芳臣君の二人がやって来た。今日も円盤が出たとか

①まず巨大な葉巻型UFOが出現。

昭和49年10月11日早朝、藤松和彦君（高１）が撮影。

②続いてアダムスキー型円盤が現れた。

何とか話し合っているうち、午後二時半頃、二人が帰ろうとする直前にUFOが出現したのをこの二人だけが見た。最初は葉巻型の物体が見られたが、そのあと雲の切れ目から三角形みたいな黒い物が約十秒見えたという。したがってこの日は二回出現したのである。

まじめな人物という証言

十一日に藤松君が見た帽子型UFOの底には三個の丸い玉があるのを肉眼で確認したというが、逆光のために写真には写らなかった。しかしこの物体がいわゆるアダムスキー型円盤と呼ばれていることは、後日同志社大学の学生から教えてもらったという。それまで同君はアダムスキーの本などを読んだことはなく、アダムスキーに関しては全く知識がなかったのだが、学生の人たちから話を聞いて知ったと言っていた。これは編者が翌年一月十二日に尾道市の同君宅を訪問した際に直接聞いた話である。したがって当時一部のアダムスキー否定論者が、高校生たちのでっちあげだと批判したのは、全く当を得ていないことがわかる。

しかも十九日に砂田君と向井君の二人が見たUFO出現と関連があると思われる別な目撃証人が現れた。藤松君のUFO撮影事件の記事を中国新聞で読んだ同市新浜町の土建会社堀田組社員、中山勇さん（当時二十六歳）が「自分も十九日に円盤を見た」と名乗り出たのである。

中山さんは同日午前十一時半頃、会社の寮の七階の窓から千光寺山の方を見ていると、頂上付近を葉巻型のUFOがオレンジ色に輝きながら山のむこうへ飛んで行くのを約五秒間目撃した。

「山の斜面がオレンジ色になっているので、一瞬山火事ではないかと錯覚した」と言う。「信じられぬ現象だから、だれにも話していなかったが、新聞を読んで間違いないと思った」（同月二十二日付中国新聞）

いったいにこの年の十月には備後地方にUFO出現ブームが発生しており、これについては中国新聞尾道支局の真田恭司氏がかなりの情報を集めていた。藤松君の撮影事件をいち早く報道したのはこの人である。これにより東京から週刊誌の記者やテレビ局などが同君宅に押し寄せたという。

真田氏の話によると、藤松君と他の三人の高校生の話は一貫してスジが通っており、真実の体験に間違いないという。また藤松君の担任の先生も「本人は非常にまじめな、素直な、明るい性格で、信頼のおける人物です」と編者に語っていた。

メンタリティーの相違

編者が十年前尾道で取材して歩いた結果を綜合すると、アダムスキー型円盤と母船が出現して撮影されたことは絶対に間違いないと断言できる。そして今更いうまでもないが、アダムスキーが撮影した円盤や母船なども、別な惑星から来た本物の宇宙船を撮影したものであることも間違いない。

ひとつ現地で聞いた秘話を紹介しよう。藤松君の事件を何かで知ったあるUFO研究家が、同君に面会するために学校を訪れた。この人はアダムスキーをひどく攻撃するので知られている。ところが担任の先生は一目（ひとめ）でこの人物の〝意図（いと）〟を見抜いて、同君に会わせないで追い払ってしまったという。この先生の眼力もさることながら、世界でも珍しい驚異的体験をあたまから疑ってかかり、インチキとして葬り去ろうという魂胆（こんたん）でやって来たその人の執念深さには考えさせられるものがあった。人間のメンタリティー（ものの考え方）や直感力にこうも大差があるのかと思わずにはいられない実話である。

藤松君は現在二十六歳の立派な青年に成長し、すでに結婚して、自宅から会社に勤務しているが、あれ以来、UFO目撃の体験はないという。

●事件当時の藤松和彦君

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

人間の想念に応答する植物

＊＊＊＊＊　小川　隆　＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

植物が人間には未知の〝意志〟を持つことは、むかしニューヨークのバクスターがウソ発見器とサボテンを用いて実験した結果で名高い。

以来世界各地の先覚的科学者がこの実験を試みて同じような成果をあげたことはよく知られている。

しかし人間の想念と植物が示す反応との物理的因果関係が明確にならぬままにこの種の実験も忘れ去られようとしている。

植物を形成する原子・分子は、いわば生きものであり、人間の想念に応答するという事実を確証するためには、実験によって証明を得なければならない。実際的な証明の積み重ねによってこそ、その事実が判明する。

そこで日本ＧＡＰ会員・小川隆氏は純粋な意欲と科学的精神、さらに人一倍の忍耐力により、愛の想念が奇跡的な効果をあげることを立証したのである。

人間の愛の想念を受ける草花と、受けない草花の成長はどのくらい違うものだろうかという考えが起こったのは、昭和五十七年の四月だった。

当時私は青少年ホームという十代から二十代の若い人たちが集まってサークル活動や講座活動などを行う所を利用していたので、このホームの中でコズモ同好会という宇宙研究会を作った。

ある時、私は何か目に見える物で実験の対象になるものはないかと考えた末、今度の実験を思いついた。この会は一般の人たちに少しでも宇宙的な方向へ目を向けてもらおうと考えて始めたもので、月に一回集まって天体観測やテレパシーの話などをやっている。

金蓮花による実験

実験は昭和五十七年四月十七日から始めた。実験に用いた草花は金蓮花である。二つの植木鉢を用意し、タネは一つの鉢に三個まき、同じ条件の土と肥料と水を与えた。こうして二つの鉢の植物の一方に愛の想念を放射し、他方には放射しないことにして、植物の反応を見ることにしたのである。

公共の場所での実験なので、いたずらされて、どちらが愛の想念を受けた植木鉢か不明になってはいけないので、愛の想念を送る方の植木鉢には黒のガムテープを貼り、星のマークを描き、さらに植木鉢のフチに三角のキズを三カ所つけておいた。（写真1）

タネをまいた日はタネと一体化したフィーリングを起こすようにし、大きく元気に育ち、花がいっぱい咲いているイメージを描いて、その想念を両タネに送った。

実験の経過

四月二十六日。芽が出る。愛をそそいでいる方は元気がよい。茎も太い。（写真2）

四月二十七日。今日から日当たりを一日交替にする。これは柱に近い方の鉢は日当たり時間が少ないので、条件を同じにするためだ。愛の想念を放射している方の茎は細いが成長が早い。しかも青々としている。

五月一日。愛の想念を放射している方は、分かれている枝の間から出ている芽の伸びが早い。愛を放射していない方のが大きくなってしまった。（写真3）

五月三日から五日まで日本ＧＡＰ沖縄支部大会出席のため留守をするので、職員の方にやり水を頼んだ。沖縄滞在中も夜はホテルのベッドの中で草花のことを思い出しては愛の想念を送り続けた。

五月十三日。愛の想念を放射している方は葉がきれいだ。からまずに、あまり垂れずに成長している。（写真4）

この頃から「元気に大きく成長し、花をいっぱい咲かせて下さい」と思念するとともに、そうなっている光景のイメージを描く。この頃から草花が部屋の中に置いてあるので日が当たらなくなったようである。

七月二十八日。愛の想念をそそいでいる方に赤い花が一つ咲いた。「やった！」と感激で胸が一杯になった。愛の想念を放射していない方は花もつけず、完全に枯れる一歩手前である。（写真5）

このあと七月三十一日から八月四日まで青森支部大会を兼ねた観光旅行で留守をするため、また職員の方にやり水を頼み、青森から帰ってから花がいっぱい咲く想念を送った。

ところが青森から帰ってみると、八月二十五日までに赤い花が二つ咲いたにすぎなかった。

八月二十六日になって、ある事情により、草花を青少年ホームより撤去することになったので、実験を終了にした。

私は両方の草花に「ありがとう」と言わずにはいられなかった。私の分身と別れるような気持になり寂しくなったが、一方ではなぜか幸せな気分と満足感をおぼえた。

実験中は草花と一体というフィーリングを持っていた。私が元気のないときは草花もしおれ気味になるので、これではいけないと思って草花を見ながら楽しい想念を起こして、「元気になりなさい」とテレパシーで語りかけると、次の日は元気になったこともあった。これは愛の想念をそそいでいる草花の方のことである。水のやりすぎのためか両方の草花共成長しすぎたようだった。

今回の実験を通して、植物がこれほど大きな反応を示すのかと驚くとともに、自信も得た。実験を始めた当初、懐疑的な人、信用しない人、笑っている人などがいたが、これらの人々から結果についての感想は何も出ていない。

写真１

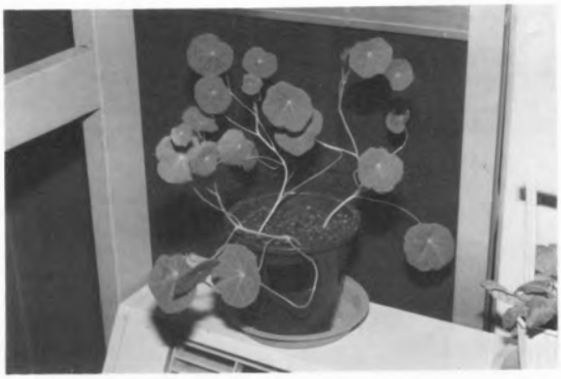


写真４

写真２

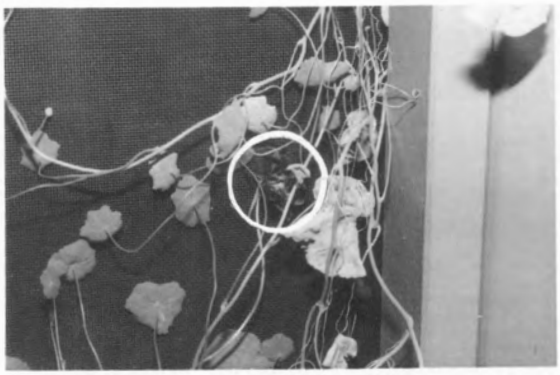


写真５

写真３

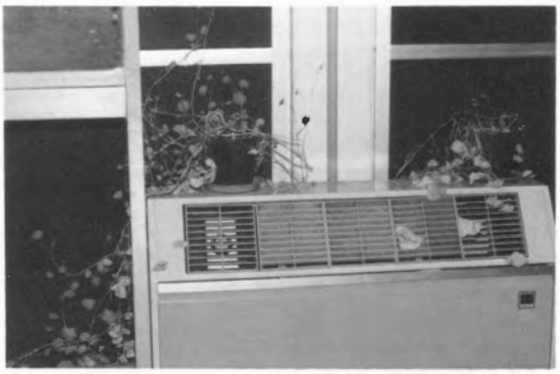


写真６

写真１＝右側が愛の想念を受ける鉢。写真２＝右側の伸びがよい。写真３＝愛の想念を受ける鉢は左側に移されている。写真４＝愛の想念を受けている方は葉がきれい。写真５＝赤い花（○印）がついた。写真６＝まだ赤い花が咲いているが、右側は完全に枯れている。

イエスと転生

星　香留菜

二千年前にエルサレムで劇的な最期をとげたイエスについては多くの憶測や説が出ているが、かつてアダムスキーに親しく接して教えを受けた海外のある人から、イエスの最期と、いわゆる〝復活〟に関する真相をアダムスキーから何度も直接に聞いた話として、次のような興味深い情報が寄せられた。

「イエスは実際には十字架上で完全に死んでいなかった。彼はインドのヨギ（ヨガの行者）がやるように、深い昏睡状態におちいった。新陳代謝がひどく低下し、呼吸もほとんど止まり、生きているようには見えなかった。十字架から〝死体〟が降ろされて一同が墓の中に運び入れてからも、この意識不明の状態は続いた。

二人のスペース・ピープル（異星人）が夜間、墓の中へ入ってイエスに何らかの処置をほどこして生気と体力を取り戻させた。それでイエスは生き返ったのである。

そのあと、しばらくイスラエルに住んだので、弟子たちやイエスを敬愛した人たちにこの事実が知られるようになった。

しかしイエスは後に別な惑星から来た宇宙船（円盤）に乗せられて飛び立った。このことは新約聖書の使徒行伝の第一章に〝昇天〟と表現してある。

『ひとむらの雲がイエスを包んで見えなくした。イエスが上って行かれるとき、彼らは空を見つめていた。すると、そのとき突然、白い衣をまとった二人の男が彼らのそばに立って……（中略）天に上るのをあなたがたが見たのと同じ有様でまたおいでになるであろう』

アダムスキーによれば、この二人の男はスペース・ピープルで、イエスは円盤に乗せられてどこかへ連れて行かれたのである。そして右の二人の男の言葉どおりに、後日またも円盤によって地上へ帰ってきた。アダムスキーはイエスがアメリカのデザートセンターへ連れて行かれたとは全然言っていない。

磔刑のときに弟子たちは殺されるのを恐れて逃げたが、ヨハネだけはイエスを救出しようとして最後まで十字架のそばに立っていた。二千年後の現代となって、かつてイエスであった人は金星人に転生してアメリカの砂漠に円盤で着陸する。そしてヨハネであった人はアダムスキーという名のアメリカ人に転生して、この金星人と劇的な会見をする（この詳細はアダムスキー全集第一巻『宇宙からの訪問者』に述べてある）。このときアダムスキーは相手が二千年前のイエスであったことを確認するが、そのことは右の体験記には述べてない。

アダムスキーは若い頃、一人の友人と一緒に仕事をやっていて、うまくいっていた。しかし内心は求道精神に燃えて、自分が宇宙的な哲学を人々に伝えることに向いているという強いフィーリングがいつも起こっていたが、仕事を捨てる勇気もなかった。

ある日彼が沈思黙考していたとき、イエスの姿が映像となって出現し、次のように言った。

『私はあなたの仕事がうまくゆくように援助してきました。さあ今度は私のために何をやってくれますか』

そこでアダムスキーは一大決意のもとにお金になる仕事を捨ててしまい、宇宙の法則を伝える方向に大転換した。イエスは多くの転生を通じて地球の向上と地球人の意識の高揚を図るカルマを持っていた。そして二千年前に愛弟子であったヨハネの転生した姿であるアダムスキーの仕事をひそかに援助して、十字架から離れようとしなかった彼の恩義に報いた。そして俗世での体験を充分に積んだ頃に、再度宇宙の法則の探究をうながしたのである。アダムスキーもかつてイエスであった金星人を援助する使命を帯びていた。この金星人をアダムスキーはオーソンという名で呼んでいる。

以上のとおり、二人の関係は深遠な宇宙的なカルマの法則の具現であり、多くの転生を経て行われてきた。

以上の事柄は別段秘密ではない。アダムスキーは充分な理解力を持つ人たちには何度も話していた。しかし公開の席ではけっして語らなかった。これは宇宙的な事実を神秘主義（心霊）と混同されることを警戒したからである。アダムスキーが透視したイエスの映像は心霊的な幻覚ではなく、宇宙船から放射された放射線によって可視化されたものである。

アダムスキーの宇宙的体験は心霊とはいっさい関係ない。彼は真実と心霊とを混同しないようにと常に警告していた。混同するとUFOの分野の真実が大衆から嘲笑されるし、真相の全体が人類に知られなくなって、宗教的なことにされてしまうからである。

転生の問題は人間にとって最も重要であるのに、地球人はまだこの知識を持っていない。この問題にはアダムスキーが地球に生まれた理由や、使命を遂行しようとした理由について、真実の意味そのものが含まれている」

甚だ意味深長な情報である。この情報源はきわめて信頼のおける人物なので、以上の内容をアダムスキーが語ったというのは間違いないと思われる。イエスの死体を墓に運ぶ途中、上空から円盤が放射線をあびせて生き返らせたとか、復活後に円盤に乗せられてアメリカの砂漠のデザートセンターへ送られ、そこに住んでいた偉大なインディアンの一族を指導しながら八十数歳まで生きたという話は、アダムスキーから聞いたことはないと言っているところをみると、どこかで話がゆがんだのかもしれない。

名高い聖骸布の科学的研究によると、明らかに放射線をあびせた形跡があるので、以前は円盤の放射線説が有力視されていたが、これは訂正を要するようだ。推測だが、あの放射線は墓の中で何者かによって、何かの装置を用いてあびせられたのではないかと思われる。こう考えるほうが合理的だ。

イエスが復活後デザートセンターへ送られなかったとすると、どこへ行ったのか？　おそらくもとの出身惑星へいったん肉体のままで帰って、充分に体力の増

強を図った上で、再度地球へ来たのであろうが、パレスティナに永住したのではなく、外国へ指導に出かけたのではないかと思われる。これについて前述の情報源によると、L・テイラー・ハンセンという古代史研究家が書いてイギリスで出版された『彼はアメリカの大地を歩いた』と題する本に、イエスとおぼしき青い目をした白人の指導者について詳述してあるという。

この白人は舟に乗って海を渡り、南北両アメリカを教えながら歩いたが、そのティーチングはアダムスキーの宇宙的哲学と全く同じであった。これはイエスが十字架にかけられたあと、地上に帰ってきた後に起こった出来事であるらしい。ただしこの本の内容はアダムスキーの話とは全く関係はない。筆者はまだこの本を読んではいない。

イエスが死んだ直後に円盤が放射線をあびせたかどうか、円盤でデザートセンターへ送られたかどうかは些細な事であって論議するほどのことではない。問題は二千年をへだてた、イエスとアダムスキーをめぐる深遠なカルマと転生の事実をどこまで理解するかにある――これが事実とすればだ。

これにはまだ地球人の理解力を超えた要素がひそんでいると思われるが――もちろん科学的には転生は全然認められていない――こうした問題を信ずる人と信じない人との差も、やはりカルマの差であるのかもしれない。それは科学知識などを超えた別次元の何かであろう。UFO問題はあまりにも深遠だ。

▲イタリア・トリノの太聖堂に保存してある有名な聖骸布の像をもとに、高度解像写真を何枚も使って実物大の粘土模型を作り、多くの学者の意見を参考に復元したイエスの像。イギリスの画家カーティス・フーパー氏が7年かかって制作した。左のアダムスキーが描いたイエスの顔と比較されたい。

◀アダムスキーに現れたイエスの映像を、アダムスキーみずから描いた油絵。この等身大の絵画はメキシコ市在住の弟子であったマリア・クリスティーナ・デ・ルェダ夫人に贈られ、同夫人の大邸宅の特別室に飾られていたが、夫人が死去した際に遺言により棺に入れて焼かれた。この写真は久保田八郎日本GAP会長が1977年8月に同家を訪問して撮影したもの。

MOONGATE

By William L. Brian

ムーンゲート(完)

● ウイリアム・L・ブライアン
久保田八郎訳

〈連載第8回・翻訳連載権独占〉

第14章 現在と未来の宇宙開発計画

月着陸船の謎

アポロ宇宙船の月面離陸写真類は、月の表面から脱出するためにロケットの推進装置は用いられなかったという証拠を示している。読者は本書の（原書の）写真18に見られるアポロ17号の月着陸船の離陸の模様を伝えたカラーテレビ写真を参照されたい。この写真にはロケットの排気ガスの跡が全然ないのだ！

月が強い引力を持ち、地球に似たかなりの大気を持つという莫大な証拠がこれまでに与えられてきた。この写真に見られる黒い空は、空の部分がおそらくフィルターで落とされたものである。一見すると、空を暗くするのに用いられた暗黒化処理法により、ついでに排気ガスも消してしまったと思われるかもしれない。しかし空は暗くされても大気は存在するのである。それゆえに強い引力も存在するから、ロケット類は初めは作動しないだろう。

前記の写真をくわしく調べてみると、月着陸船の上昇段が照らされているように見える。この輝きは着陸船の輪郭をあらわすもので、明らかに排気ガスのそれではない。しかしこれは着陸船の側面にあたった太陽光の反射なのかもしれない。もし排気ガスが少しでも現れるとすれば照らされた上昇段の下に見られるだろう。

写真19（原書掲載）に見られるアポロ宇宙船の離陸の光景と、前記のアポロ17号とを比較してみよう。赤、青、緑、黄色などの斑点は、上昇段の底で多くの活動が発生していることを示しているように思われる。一つの可能な説明としては、上昇段を降下段に連結していた爆発性ボルトが爆発したということだろう。このために金属の破片や他のクズが船底から吹き飛ばされたのかもしれない。

別な可能性としては、ロケットが単独の推進装置であることを大衆に確信させるために、最初の噴射用燃料を少し燃やしたとも考えられる。筆者は完全な離陸を示す8ミリフィルムを入手したが、最初の噴射はロケットのノズルから出てくる赤色の羽毛のように見えることに気づいた。しかし上昇段が降下段から切り離されるとすぐに停止した。

写真20は写真19が撮影された直後のアポロ16号の離陸の写真である。ロケットのノズルから出るはずの排気ガスが全然見えない。これらNASA（米航空宇宙局）の写真類を疑おうとする人たちは、排気ガスは真空中では目に見えないのだと主張するだろう。しかし化学的なロケットはカ氏数千度で大量の燃焼物を排出する。この燃焼物やガス類は排気ガス航跡の中に強烈な光を放射し、それがロケットのノズルから長く伸びる。ノズルからの距離が増大するにつれてガスや燃焼物は散り始めるのである。この量の光ならば、しばしば周囲の地域を照らすのに充分なことがあり、最大に強い光は排気ガスの流れ自体の中にある。真空というものは排気ガスの流れから放射される光を除く効果をほとんどもたない。これは排気ガスや他の燃焼物がそれ自体の放射エネルギーまたは光を供給するからである。

とにかく（先に述べたように）分離の際の最初の噴射または燃焼は、上昇中にも燃焼物が見えたはずであるという証拠を示している。その燃焼物が最初に鮮明に見えたからである。

おそらく読者はアポロ11号に先立って新聞や他の文献に掲載された月着陸船の離陸の図解を思い出すだろう。それにはきわめて鮮明な排気ガスの流れがいつもロケットのノズルから出ている光景が描かれていた。要約すると、月着陸船の写真類やフィルムなどは、ロケットが月面から脱出するために用いられたのではないという証拠を示しているのである。

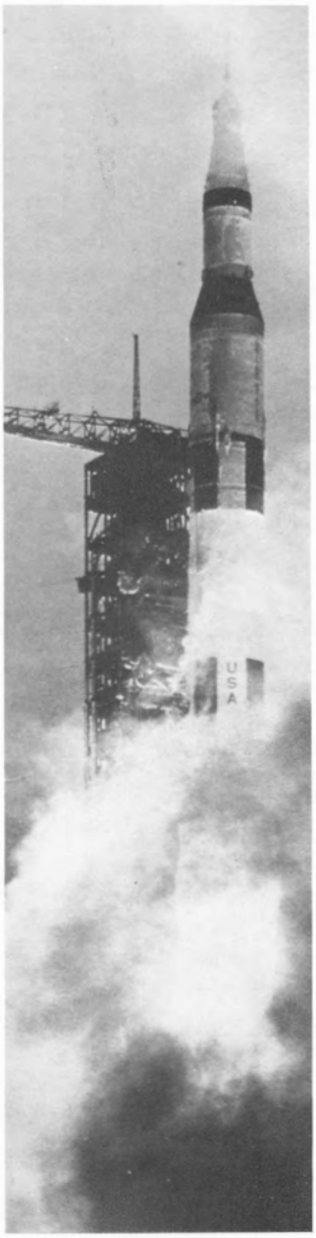
アポロ宇宙船は反重力装置を用いた？

月着陸船の航空力学的な問題はまだ論じられていないが、これは明らかに航空力学にとって不幸なことであった。このことは月面上の真空状態に関係はないとNASAは強調している。月には濃密な大気があるという証拠は出てきたので、月着陸船が高速に達すると航空力学的に不安定になるだろう。このことは速度が危険なスピードにならないように保たれたにちがいないことを意味している。低速はロケットでは有効に行えない。スピードを落とすと、必要な燃料は天文学的な量になるからである。

また降下中と上昇中に宇宙飛行士たちが立っていたというのも意味深長だ。おそらく彼らは天井に取り付けた安全ベルトで適当な位置に保持されていたと思われる。しかしそれでさえも、この種の装置をつけた飛行士はかなりの減速や加速に耐えられないだろう。このことは加速や速度は低く抑えられたことや、ロケット燃料を有効に使用するために最悪な状態が生じたことを意味するのである。

宇宙飛行士を月面に着陸させたり離陸させたりするのに、NASAは実際にどんな方法を用いたのだろう？

巨大なサターン打ち上げロケット（訳注＝アポロ司令船、機械船、月着陸船な



●月へアポロ宇宙船を運んだサターンⅤロケットの打ち上げの瞬間。

どを運んだ大ロケット。三段から成る。全装備の高さは一一一メートル、打ち上げ重量は二、九一三トン、F―一第一段エンジンの推力は三、四七〇トン）の製作計画図は、月の強い引力の発見に先立って間違いなく製図板上にあった。ヴェルナー・フォン・ブラウン（訳注＝もとドイツのロケット開発科学者。第二次大戦中、彼が設計した長距離ロケットⅤ2号はオランダからイギリス本土攻撃に使用され、イギリス人を恐怖させた。このロケットが発展して今日の弾道ロケット誘導弾や人工衛星打ち上げ用ロケットが作られるようになった。ドイツの敗戦後米軍に捕らえられてアメリカへ送られ、米陸軍の長距離ロケットの研究を行い、六〇年以後はNASAに属してアポロ計画に偉大な貢献をした。七七年に六十五歳で没）は、NASAが設立されるよりずっと前にこのようなロケットを心に描いていた。実際このロケットは大きいので、月へ化学ロケットを用いた着陸船を送り込むには少なくとも七倍も大きなものが必要となったことだろう。反重力装置が開発されたあとは、サターンロケットも必要なくなるだろう。しかし大企業や軍部の勢力が宇宙開発計画に深くかかわっている。このプロジェクトが続いても軍部は新しい発見事を秘密にし続けるだろうし、大企業によって数兆ドルの金がつくられて軍部の秘密研究プロジェクトに使われるだろう。かつて宇宙飛行士たちは大気圏外に飛び出たが、そのときは進歩した反重力装置が秘密裡に用いられたのかもしれないし、大衆はメクラにされている可能性をある。

●米軍に逮捕されたときのフォン・ブラウン

軍部はアポロ計画以前に月へ人間を送っていた？

軍部は金のかかる防衛予算の誘因や要求を出し、大企業はその支出から利益にあずかろうとする。米政府はこうした企業のあやつり人形と化しているのかもしれない。本章で述べたようなエネルギー発生装置が一夜にしてエネルギー危機を消滅させ得ることを考えてみれば、読者にとってこのことは明白となるはずだ。実際、エネルギー危機は世界のエネルギー企業の利益のためにつくり出されているのだ。

NASAがロケットだけでは人間を月面に着陸させるのに充分でないことを発見したとき、資金は間違いなく重力研究や関連プロジェクトに向けられた。軍部はたぶんすでにサール効果やビーフェルト＝ブラウン効果を一九五〇年代初期に研究していたのだろう。そして一九五〇年代なかばまでには、この装置を完成させていたかもしれない。加うるに重力を誘起する放射線を発生させる装置が一九六〇年までに開発されていたとも思われる。確実に可能性があるのは、米軍部はアポロ11号が月に着陸するよりもはるか以前に月へ人間を送っていたということである！

アポロ宇宙船に用いられたこの新開発の浮揚装置は、必ずしも宇宙船が百パーセントこの装置によって作動しコントロールされたというほどに使用されたのではない。おそらくそれはブレーキ、軟着陸、上昇時に主推進源として用いられたにすぎないだろう。姿勢制御は依然として小型のスラスターでやったのかもしれない。この新しい反重力装置も最少限度に使用すれば、秘密を維持するのははるかに容易である。

この浮揚装置にパワーを送るにはやはり電気エネルギーが必要である。サール効果は浮揚装置を始動させるのにわずかな電気エネルギーを必要としたにすぎない。あとは周囲の空間からのエネルギーがそれを支えるのである。しかし重力誘起放射線発生器は絶えず電源を必要とするだろう。とにかくアポロ宇宙船にはサール効果発生機、ビーフェルト＝ブラウン効果装置、重力誘起放射線発生器、その他の秘密な装置の種々な組み合わせが応用されたにちがいない。

ソ連も反重力装置を開発したか

NASAや米空軍がUFOに関して沈黙を守ってきたのは、彼らの反重力装置の開発と利用のためなのかもしれない。空軍が実に一九五〇年代の初期からUFO研究に多大の時間と労力をついやしたことはよく知られている。彼らがその経過においてUFOに関して多くの事を学ばなかったと考えるのは素朴であろう。彼らのUFOに関する完全な黙秘策は、大衆から隠さねばならぬ物を持っていることを示している。一九四七年にニューメキシコ州ロズウェルで墜落したUFOに関する政府の隠蔽の詳細な記事を読むには、チャールズ・バーリッツとウィリアム・L・ムーアの『ロズウェル事件』と題する本を強くすすめたい。一九五〇年代と六〇年代に目撃されたUFOの多くは米空軍が所有していたものであるという可能性は充分にある！

宇宙開発競争におけるソ連の役割は控え目に言ってもきわめて謎だらけであった。ソ連は月にむかってアメリカを出し抜こうとしたときに、この競争から手を引いてしまった。それともソ連はやったのか？ ソ連はアメリカよりも前に月探査機を月に軟着陸させている。これは反重力が応用されたか、それとも探査機をゆっくり降下させるのに月の大気が利用されたかのいずれかを意味する。月の大気が利用されたとすれば、地球の大気圏突入時にカプセルの表面に用いられる物に似た熱遮蔽物が用いられたであろう。

一九七〇年九月二十日、ソ連はルナ16号を軟着陸させた。これは月の豊穣の海から採取した土のサンプルを持って地球へ帰還した遠隔操作の月探査機である。この業績はアポロの月着陸に比較して無意味と思われたが、この装置は月の強い引力の中で反重力推進システムを必要としたかもしれない。アメリカのサーベヤー探査機は月の強い引力中で軟着陸するほどの燃料を持たなかったので、一九六〇年代なかばには米ソ両国によって反重力装置が月探査機に用いられたと思われる。

ソ連は完全な秘密裡に月へ人間を着陸させてつれ戻すのに反重力装置を用いたかもしれない。月には強い表面引力があることをソ連が一九五九年に知ったあと、ロケットだけで成功するのは不可能なことがわかったのだ。そこで彼らはアメリカに世界向けのショーを演じさせておいて、反重力に注意をそそいだのだろう。限られたロケットによる宇宙探険計画を維持し続けることによって、彼らの反重力による探険の試みの秘密も維持できたのだろう。

『ソ連はふたたび宇宙支配を断行する』と題する記事が、一九七九年九月三十日付のオレゴン紙に掲載されたことがある。この記事の筆者はかつてアポロ10号の宇宙飛行士トーマス・P・スタフォード陸軍中将が議会へ送ったメッセージを引用している。中将は当時研究開発チームの副主任であった。

スタフォードは、ソ連は月到着競争の逆行から元へもどろうとし、国力のシルシとして意欲的に努力を進めていると信じていた。ソ連は宇宙ステーション、コロニー、軌道を回る工場群、さらに別な惑星へ人間を送る方向にまで研究開発をやっていると思われていた。

●スタフォード

一九八〇年十月十一日に、二人の宇宙飛行士がサリュート6号宇宙ステーションに乗って、百八十五日すなわち六カ月以上の飛行記録を樹立してから地球へ帰還した。前記の引用記事によると、スタフォードはソ連が有人軍用宇宙船の可能性を開発しつつあると信じていた。

チャールズ・S・シェルドン博士もこの記事で出てくる。彼はソ連が全く新しい輸送宇宙船を用い始めたかもしれないと言っている。加うるに彼はソ連が巨大な宇宙ステーションと、別な惑星を探険するために有人惑星間探険船を建造するだろうと予想していた。しかしシェルドンはソ連が用いると思われる推進装置を説明していない。従来のロケットを用いて引力の強い惑星へ宇宙飛行士を着陸させるのは、どこの国にとっても経済的に大変である。したがってシェルドンの主張が本当とすれば、ソ連も反重力装置を持っているかもしれない。

読者は、軍部にとって利用できる最新の技術は、一般化されるよりも常に数年先を行っていることを思い出すだろう。ソ連はアメリカよりも浮揚装置の開発や他の惑星の探査でおそらく先行してはいないだろう。十中八九はアメリカの有人宇宙探険はアポロ飛行後もけっして中止されてはいない。ソ連が一つの口実としてサリュート6号宇宙ステーションを用いながら六カ月間にわたり、月や他の惑星に宇宙飛行士を送るかもしれないと考えるのは興味ある可能性である。そうだとすればアメリカは何をやろうとするだろう？ スペースシャトル計画は軍部の宇宙開発作戦のためのもう一つのオトリなのだろうか？

驚異的発見事の隠蔽また隠蔽

NASAの隠蔽の結果、NASAやオーソドックスの科学者連によって一般へ公開された別な惑星に関するあらゆる発見事を、疑惑の目で見る必要がある。月の強い引力により、惑星の引力と大気に関する概念やその他の宇宙論的概念にたいして徹底的な修正が要求されている。

以上の考え方や莫大な証拠は、太陽系内の多くの惑星や衛星にはわれわれを陵駕した技術を持つ知的な人々が住んでいるかもしれないことを示唆している。そうだとすれば、宇宙空間におけるアメリカやソ連の作戦はこの人々によって制限され、一定の範囲に限定されるかもしれない。われわれはこの人々が超大国の進

●アポロ宇宙船が撮影した月の裏側。中央左寄りに人工建造物らしき物と白いスジが数条見える。

出を阻止してくれることを望みたい。なぜなら軍事目的で宇宙空間を利用するのは結果的にわれわれの破滅に至るからである。

本書に出された証拠類は、エネルギーに関連した重大な発見事のすさまじい隠蔽が行われてきたことを示している。NASAのこの隠蔽はその小部分にすぎない。この隠蔽の理由は簡単に述べたけれども、多数の新しい発見事は驚異的である。もしアメリカ政府がこの発見事の公式声明を出したら何が起こるかを考えられたい。引力の性質に関するありふれた知識とそれをコントロールする金のかからぬ方法こそ輸送に大変革をもたらすだろう。そして実際的に無限のエネルギーを持つ新しい世界が混沌の中から出現するだろう。

訳者付記　二年間八回にわたって連載した『ムーンゲート』も本号でやっと完結した。ご愛読頂いた読者に謝深する次第。原著者の驚くべき証拠類と卓越した推理により月に関して驚異的な真相を暴露した本書はUFO問題にも言及し、地球以外の惑星群に偉大な人類が存在することを示唆している。原著者ブライアン氏が宇宙問題のパイオニアーとして輝かしい名を残すことを期待したい。本誌に無償で翻訳連載権を与えられた同氏に心から感謝する次第である。

アダムスキー問題の真実性と宇宙哲学実践法

久保田八郎
〈日本GAP会長〉

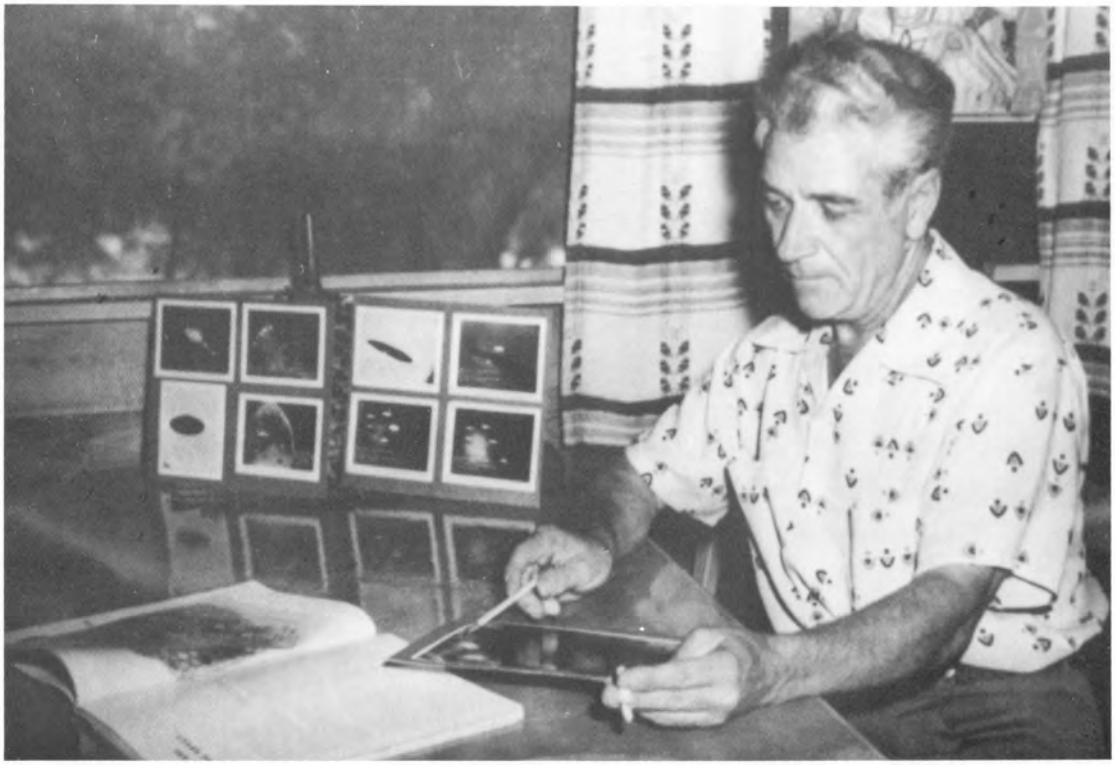
今年は日本GAP創立二十五周年ということになって、それなりの行事が各地で展開していますが、実際に私がジョージ・アダムスキーと文通を始めたのが昭和二十八年で、世界GAP参加リーダー名簿に私の名が掲載されたのが昭和三十四年十月ですから、アダムスキー問題の研究自体は三十年以上にわたっています。

その間を回想しますと、さまざまな出来事の連続で、身辺の変化、不思議な事件、奇怪なトラブルなどを公表すれば、まさに波瀾万丈の人生ではないかと思われましょうが、ナーニたいしたことではありません。根が徹底した楽天主義者の私ですから、心底からの苦難という想念を起こすことはなく、むしろ苦境に立てば立つほど、それをレッスンとみなして逆に強烈な信念を起こしていましたから、その信念の力で切り抜いてきたと一応言えるでしょう。楽天的または良い意味での蛮勇的信念が私の身上であるとも言えますが、同じ信念でも宇宙哲学を基盤にして、もう少し次元の高い信念を応用するほうがよろしく、宇宙力を用いるとよいのです。この点はあとで述べましょう。

NASAの科学者マキャンベルはアダムスキーを支持した

アダムスキー問題が世界で喧伝されて以来、年久しくなります。正直に言って現在はかなり下火になってしまい、世界GAP網もかっての十数カ国から現在は数カ国に激減して、どうみても不利な状態になっています。

●ジョージ・アダムスキー



●「ユーフォロジー」の表紙

しかし真実はいつか必ず脚光を浴びるのでして、イエスの説いた宇宙の法則も三百年後にはローマのコンスタンティヌス一世によって国教に定められたのですから、現在のようにマス・コミュニケーションの発達した時代ならば、アダムスキーの宇宙的体験や哲学の真実性が一般に認められるようになるまでには百年とかからないでしょう。もっと早いかもしれません。しかしそれは来世紀と思います。

ということはアダムスキーの主張した宇宙的体験なるものは真実であったということを前提としています。一部の否定論者が言うような虚偽の発表ではないのです。そしてそれなりの多くの裏付けがあるのです。

いまその裏付けのすべてを挙げれば膨大なものになりますから省略しますが、ここにひとつ重要な文献がありますので紹介しましょう。

さほど新しい書物でもありませんが、一九七六年にアメリカで発行されたUFOの専門書で「ユーフォロジー」という本があります。著者のジェームズ・M・マキャンベルという人はカリフォルニア州立大学のバークレー校を出た人で、物理学と機械工学を専攻し、その後大学院で物理学と数学を研究しています。その後原子炉の設計に関係してから、いわゆるハイテクの大規模な各種プロジェクトの設計管理にたずさわり、また名声を高からしめた業績のなかには国の各種研究センターの拡張計画、諸外国の経済開発計画、NASA（米航空宇宙局）のテスト施設類、原子力発電所開発計画などがあります。『アメリカ科学人名簿』に加えられ、『原子紳士録』や『アメリカ紳士録』にも名をつらねているという一流の科学者です。また全米科学促進協会と全米原子核協会の会員でもあり、北部カリフォルニアの議長にも選出されたという大物です。

不思議なベルトをしめた異星人

この人の『UFOLOGY（UFO学）』という英文原書によりますと、世界のUFO問題やコンタクト事件が科学的に分析されており、異星人の服装についても各種の特徴が列記してありますが、同書一三〇頁には『ベルト』という項目があって、UFOから出てきた乗員が腰に着用していたベルト類の詳細が述べてあります。

それによりますと、イタリアの一コンタクティーが、まばゆいばかりに輝くUFOの近くにいた二人の男を見たとき、その二人が断続的に黄・緑・青の色光を放ち、四カ月後に同じ人がまたも光るベルトを着用した別な二人の人物を見たとあります。

ベネズエラの身長二メートルの二人の異星人が着けていたベルトは光線を放ち、まずそれで照らしてから物体にさわったと述べています。

次にメキシコの興味深いコンタクト事件に言及していますが、それは次のとおりです。

「一九五三年のある雨の後、一台のタクシーがメインハイウェーでエンストした。運転手は修理が出来なかったので、二人の乗客とともに車内に座ったまま夜明かしした。二人の客は幅の広い、輝くベルトをしめていた。ベルトは連続して穴があいていた。

最初運転手はこの客は中南米のどこかの国から来たパイロットかと思ったが、客の一人が自分たちは遠い惑星から来た者だとスペイン語で話した。

夜明けになって三人は沼地を横切って一・五キロほど離れた一機の乗物の所まで歩いて行った。このとき運転手は泥の中に深くはまり込んだが、異星人たちの両脚はきれいなままだった。彼らの脚が泥沼に入ったとき、ベルトが輝いて、まるで目に見えない力で跳ねとばされるかのように泥が飛び散ったという。

異星人たちは首のまわりに金属のカラーをつけており、背中には黒く輝く小さな箱を背負っていた。この箱はどうやらベルトと関係があるらしい。あの不可視の力をもっと強くすれば、異星人たちはまりベルトは本人たちを沼の中に沈まないようにする反重力的な装置の一部分で、同時に泥をはねとばしたのだ」

マキャンベルは他の惑星の真相を知っていた。

ここで著者のマキャンベルは、アダムスキーが一九五二年十一月二十日、米カリフォルニア州デザートセンター砂漠で会見した金星人の服装の描写を次のように引用しています。

「相手の衣服は上下続きの服で……（中略）相手の服がどのようにして作られたのか、いまだに私には謎である」

（右の部分はアダムスキー全集第一巻、『宇宙からの訪問者』七四～七五頁に掲載されていますから参照して下さい）

続いてマキャンベルは述べています。

「目撃者のジョージ・アダムスキーは二十年間、世の中で全く語られていない多くの出来事が存在することを心底から期待していたので、彼は個人的な目撃を正確に述べたか、または現代で最高の先覚者の一人であったかのどちらかである」

この部分については昨年この原書を私に贈ってくれたカリフォルニア州コンコードの同志であるダニエル・ロス氏が彼のニューズレターで次のように述べています。

「NASAの科学者のなかにはUFOを研究し、自分なりの調査で研究を広げたと称している人たちがいる。ジェームズ・マキャンベルもそのような科学者の一人だった。彼は一九七三年に『ユーフォ

ロジー』という書物を書いたが、その中には科学機関などにおける自身の接触を通じて入手した漏洩や内部情報にもとづいた記事が沢山ある。彼は金星、火星、月などに関して未公表の断言できる発見事を明らかによく知っていたのである。

（中略）この科学者の情報源は『空飛ぶ円盤は着陸した』（邦訳アダムスキー全集第一巻『宇宙からの訪問者』中の第一部に掲載）であり、その中でアダムスキーは一九五二年に金星から来た人との会見について述べている。

金星や火星それに月でさえも生命は絶対に存在しないというＮＡＳＡの公式声明がかりに絶対的に真実であるとしても、なぜマキャンベルは手をわずらわしてこの男（アダムスキー）を弁護しようとするのか？

理由はきわめて簡単である。大衆はこの惑星群のことを何一つ明確に知らないからだ。発見された証拠類の多くは大衆の古い天文学上の学説や既製概念に合わせて解釈されるのである。公表される、〝大気圏外の発見物〟のなかには完全に偽造された情報もあるのだ。（中略）大衆が真相を伝えられていないことを知っているマキャンベルのような科学者は多数いるのである」（以上のロス氏の論説は日本ＧＡＰ発行英文版『ＵＦＯコンタクティー』第一号に掲載）

米ソは重大秘密を隠している

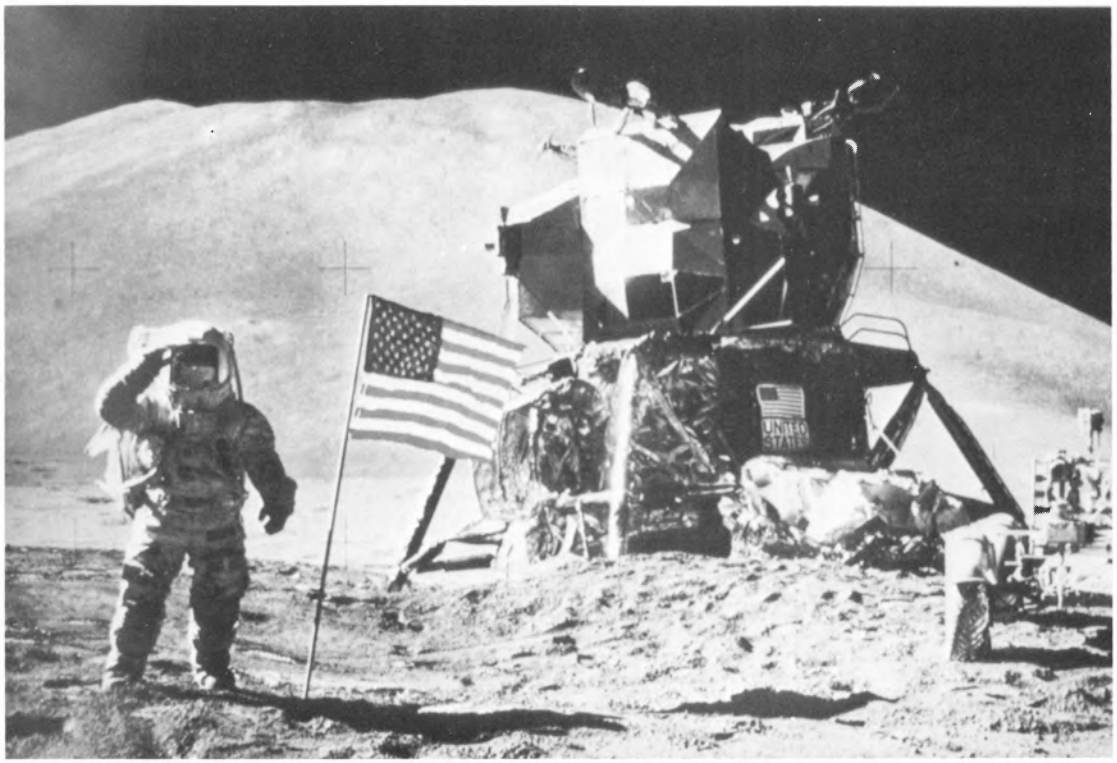
以上でおわかりのように、ＮＡＳＡに関係した科学者でアダムスキーを支持している人は存在するわけで、他にも多くいると思われますが、問題は別な惑星に関するＮＡＳＡの公式発表なるものが、ほとんど事実をゆがめたものであるという点にあるようです。金星がセ氏四八〇度の焦熱地獄という記述は大抵の天文学書に見られるもので、これを最初に伝えたのは一九七〇年十二月十五日に金星に着陸したソ連の金星七号からの報告ということになっており、これを世界中の天文学者が信じているわけです。

いったい最高首脳がちょっとカゼをひいて寝込んだぐらいのことでも秘密にしたがるソ連が、膨大な国費をつぎ込んで打ち上げた探査機による宇宙探険の成果をまともに発表するでしょうか。これは常識で考えてわかることです。アメリカも同様でしょう。

アポロ宇宙飛行士のすごい発見

探査機類の調査により太陽系の別な惑星に知的生物は一切存在しないことが判明した。アダムスキーの主張はすべてインチキだったと、いとも簡単に誇らしげにのたまう反対論者は幸せですなアと皮肉でなしに言いたいのは、月面に関する異常な人工建造物をアポロ宇宙飛行士たちが報告したすごい記録があるからで、こうした記録類を調べれば調べるほど、何が何だかわからなくなって、ひどく戸惑うことになるからです。つまり幸せになろうと思えば、こんな複雑怪奇な問題に頭を突っ込まず、真相を全く知らないほうがよいということになるのです。

●月面に立って米国旗に敬礼するアーウィン宇宙飛行士。



一九七一年八月一日、アポロ十五号で月面に降り立ったジェームズ・アーウィン宇宙飛行士は、長大な〝トラック〟を発見したと管制センターに伝えています。この構築物はハドレー山上まで続き、美しく建てられたもので、幅がすべて一定し、頂上から底まで高さがそろっており、「こんな見事な構造物は、いままで見たことがない！」と感歎の声を放っています。スコット飛行士も「こりゃすごい光景だ」と言っているのですから、言語に絶する驚異的な建造物を見たことは確かです。

アダムスキーは月面上に異星人が建設したハイウェーの写真があると言っていますが（アダムスキー全集第3巻『UFOとアダムスキー』一一九頁）、それによると、空軍将校連がアダムスキーの持っていた月面写真を拡大鏡で調べながら、道路やハイウェーなどがあることを指摘し始めたが、それらの道路は完全な直線で、数百マイルも続いていて、山脈中に姿を消したのもあり、結局山中にトンネルがあることがわかったと述べています。〝トラック〟というのは通路、軌道、線路というような意味があるので、宇宙飛行士の見た建造物は一種の高架道路のようなものでしょう。アポロ17号のシュミット飛行士も「トラック（複数）が見えるぞ！　クレーターの壁まで続いている」と興奮して叫んでいます。

以上の宇宙飛行士の月面における人工建造物目撃事件は、アダムスキーがはるか以前に著書で述べた、月面上にスペース・ピープル（他の惑星の人々）の都市や建造物が存在するという説を完全に裏付けるものです。

パトリック・ムーアのアダムスキー対談と、I氏の月面写真研究の成果

ところが、アポロ宇宙船や飛行士が月面で撮影した写真類を約千五百枚も入手して、月面の異常現象の大研究をやっている人が日本にいます。名古屋に住むI氏がそれで、私は数年前からこの方より連絡を受けており、研究の完成を楽しみにしていますが、最近の連絡によると論文執筆は七割方進展したということです。

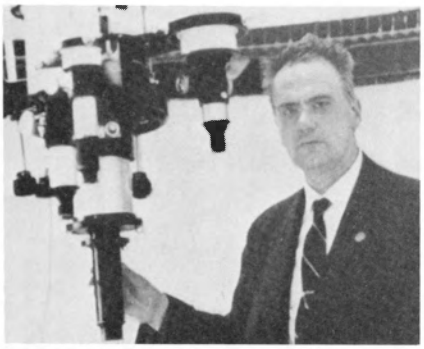
この方の話によりますと、イギリスの有名な天文学者パトリック・ムーアの書いた有名な専門書『月、形態と観察』（地人書館）の中に、ムーアの次のような記述があるのに注目したそうです。

「そのほかにも空飛ぶ円盤の問題がある。私は、この宇宙の〝土器〟のことを議論しようとは思わないが、一九五八年にBBCの〝パノラマ〟というテレビ番組のなかで、円盤に関する古典的な本の共著者であるジョージ・アダムスキー氏にインタビューした時のことだけは、どうしても書いておきたい。

アダムスキー氏は、私に、自分は月より遠い所まで行ったことがあり、犬のような動物が月の裏側を走りまわっているのを見たことがあると話された」

ムーアのこの記述に刺激を受けたI氏は、NASAの月面写真を徹底的に調査しているうちにアッと驚いたのです。なんとコペルニクス・クレーターのセントラル・ピーク（中岳）のふもとに一匹の犬がいるのを発見したというのです。犬とすればずいぶん小さな動物ですから、いくらなんでもそんなものが写真中に見えるはずはないと思って聞き返したら、犬に間違いないという確信に満ちた返事がかえってきました。犬どころか建築物なども見えるということです。氏がどのような分析をされたのかは知りませんが、特殊な科学的な方法を応用しているということでした。

アダムスキーが金星の大母船に乗り込んで月に接近し、超強力な望遠鏡でスクリーンに映し出される月を観察していたときに、四足の小動物が画面を横切るのが見えたと『宇宙からの訪問者』で述べていますが、パトリック・ムーアもロンドンにおけるアダムスキーとのテレビ番組でアダムスキーがこの件に言及したのを彼の著書に記したわけです。ムーアが畢生の仕事ともいうべき大著にわざわざ書き留めるくらいですから、よほど強烈な印象を受けたのでしょう。ということはムーアもアダムスキーの主張を真実にもとづくものと感じていたからだと思われます。くだらないことならば一節を割くほどの労をとらなかったでしょう。



●パトリック・ムーア

地球外惑星群の実態

紙数の都合であまり詳細に述べられませんが、とにかくアダムスキーが大気圏外宇宙、特に太陽系の地球以外の各惑星の実態について真実そのものを語っていたことは、まず間違いありません。

その実態の主要点を列挙すれば次のとおりです。

(1)われわれの太陽系は現在までに九個の惑星が公認されているが、冥王星の外側に未発見の惑星が三個あり、全部で十二個になる。

(2)この十二個の惑星のすべてに人間が居住して偉大な文明を築いているが、地球だけは最低のレベルにある。

(3)いわゆるUFO（未確認飛行物体）といわれるものの大部分は、近隣の惑星群から来る宇宙船であり、これに高度な知性と精神を持つ異星人が乗っている。

(4)この宇宙船は金属で出来た物体であり、人工的な重力場を持ち、電磁力を応用した推進エンジンをそなえている。したがって地球人の想像を絶した離れ業を演じることができるし、光速に近いスピードで進行することも可能である。

(5)この宇宙船の型や大きさはさまざまだ

が、大別して大型の葉巻型母船（輸送船）と、小型の二～三人乗りスカウト・シップ（観測機）に分かれる。後者は大体に円盤型で、上半分がドーム（丸屋根）、下半分がスカート状になっている場合が多い。大母船からは直径数十センチから一メートル程度の超小型観測機が発射されて地上を観測する。

(6)これらの宇宙船は地球の科学をはるかに凌駕（りょうが）した高度な科学的建造物であって、金属製の物体であり、四次元世界から来るのでもなければ、地球に接近して可視化する霊的存在でもない。

(7)異星人たちも地球人と同様の骨、肉、血液などから成る生きた肉体を持つ人間であって、霊人ではない。知能が高度に発達し、テレパシー、透視力等のいわゆる超能力を駆使する。彼らは万物一体の法則のもとに調和して生き、万物を生かす〝宇宙の意識（宇宙の英知またはパワーとも言えるもの）〟をよく自覚し、肉体の属性であるマインド（心）をこの〝宇宙の意識〟と一体化させているので、神に近い心境に達している。したがって彼らの惑星は高度に平和な社会であり、貧困、病気、警察、軍隊などは一切存在しない。科学と精神の両面が超高度に発達している。

(8)彼らは大昔から宇宙船で地球へ来訪し、ひそかに観察して救援活動を続けている。彼らのなかには地球上でひそかに生活し、地球人にまじって働いている人もあるが、表面上（体型、顔つき、服装など）は地球人と全く見分けがつかないために、一般地球人から気づかれていない。主として地球の科学研究機関、医療機関などに地球人名を名乗って働きながら、地球の科学の発達を援助しているが、タクシー運転手、掃除人その他の職業について働いている人もある。これは地球人の実態を徹底的に知るためである。

(9)彼ら異星人は特に地球上に発生する自然の変動を観察したり、核兵器の発達にともなう全面核戦争の防止に主体をおいている。これはいずれも他の惑星に悪影響をおよぼすからである。

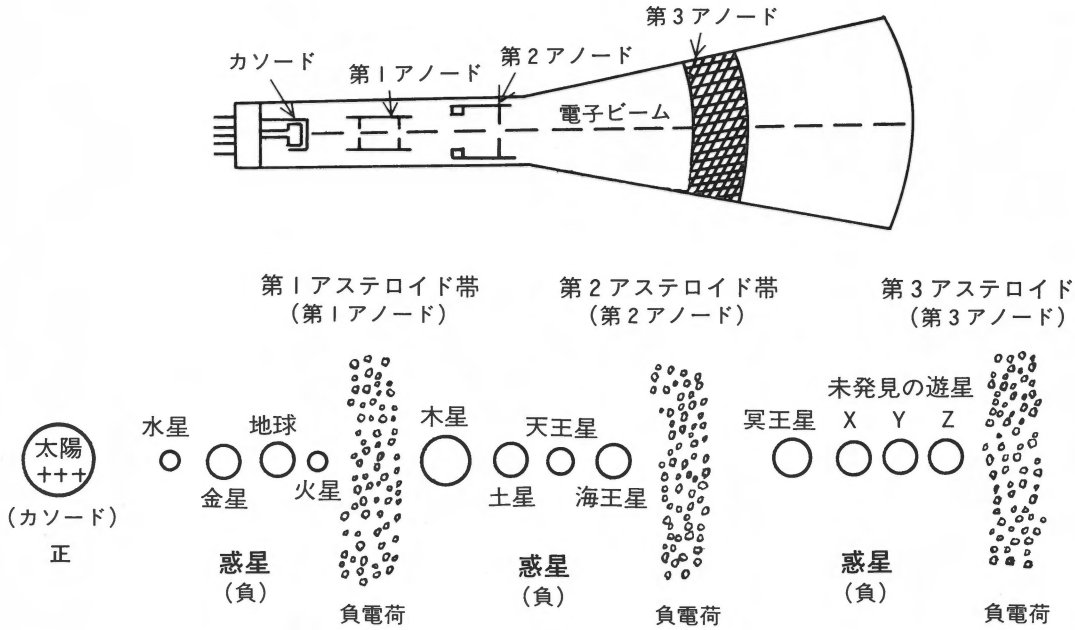
超遠距離の惑星に太陽エネルギーが届く理由

(10)太陽の放射エネルギーは逆二乗の法則（距離の二乗に反比例して弱まってゆく）により、「太陽からの平均距離が五九、〇〇〇億キロメートルもある冥王星などで太陽の熱などが得られるはずはなく、極寒の世界なので生物が住めるわけはない」というのが従来の常識であったが、これについてアダムスキーはテレビのブラウン管の構造にたとえて説いている。

それによると、ブラウン管のグリッドとアノード（陽極）の正の高電圧はカソード（陰極）から出る電子を引き寄せる。すると電子は高速度でアノード（陽極）の方へ引っぱられるが、しかしアノードの特殊な構造のために、ほとんどの電子はこれを通り抜けて次のアノードの方へ直進する。こうして理論上では種々の異なるアノードと正の高電圧を用いることによって電子群を非常な遠距離にまで到達させ得るのである。

太陽の放射エネルギーもこれと似てい

ブラウン管と太陽系との比較図



る。ブラウン管とは逆に太陽系の中心部を取り巻いている第一アステロイド帯の負の電荷が太陽から来る正の微粒子をすさまじい勢いで吸引して加速する。このアステロイド帯はグリッドの役目をするもので、微粒子はこれを通過して海王星と冥王星のあいだにある第二アステロイド帯に引き寄せられ、同じ過程をくり返す。こうして冥王星や三個の未発見の惑星までも、太陽の放射エネルギーによる普通の光と熱が与えられるのである。

転生の問題

(11)高度に発達した異星人は肉体のままで宇宙船に乗って地球へ来るが、地球救援の目的で来るボランティアーのなかには地球で転生する（生まれ変わる）人もある。二千年前に偉大な精神的指導者としてパレスティナで活躍したナザレのイエスもその一人であった。彼は金星から来た人で、地球で転生して肉体は地球人のままで生涯をすごした。彼の弟子の十二使徒もイエスを助けるために別な惑星から地球へ転生してきた人々である。

その他にも過去の歴史で偉大な足跡を残した科学者や思想家のなかには、別な惑星から転生してきた人が多い。そして一生涯を終えてからふたたび元の惑星へ転生して帰ってゆくのである。

また一般地球人でも、精神的に高度なレッスンを学び、宇宙の法則のもとに生きるような段階に達した人は、生涯を終えてから地球上で転生しないで別な高度な惑星へ転生してゆく。これは一種の〝進学〟である。そうでない人、つまり宇宙の法則に全く気づかないで、皮相的な物質のみにとらわれて物欲だけで生きている人は、同じレベルのレッスンをくり返し学ぶ必要があるために、地球上の同じような環境に生まれ変わることをくり返す。

心霊問題

(12)人間には霊魂というよりもむしろ宇宙的な実体が人体に宿って人間を生かしている。この実体をアダムスキーは〝宇宙の意識〟と呼んでいる。人体が死んで転生するときは、実体であるこの〝宇宙の意識〟が、別な場所の妊婦から生まれ出ようとする赤ん坊の体内に瞬間的に移行する。その移行に要する時間は平均三秒間である。したがって空間のどこかに存在するといわれている霊界なるものは実在しないし、死者の霊なるものも存在しない。死者の霊が霊媒といわれる人（婦人に多い）にかかって、あの世からメッセージを伝えるという、いわゆる霊界通信なるものは、実際には霊媒の体内の細胞のどれかから発せられる印象なのである。その細胞はかつて死者の体内に存在していた原子を含んでいるかもしれない。その原子は死者が生前に放った想念波動を帯びていて、その波動が細胞から放たれ、霊媒の体内で脳を通じて増幅される。あるいは死者が生前に放った外界の想念波動を霊媒がキャッチする場合もある。それでいかにも死者の霊が霊媒に乗り移って語るように見えるのである。高級霊や守護霊なども存在しない。

異星人の長寿とテレパシー能力

(13)別な惑星の高度に発達した人類は、地球式に換算して一生涯で平均数百年間生きるが、これは彼らの高度な想念が肉体に影響を及ぼして、いつまでも若々しい健康体を保つからである。病気にならないので病院や医師は存在しない。肉体に何らかの異常が起これば特殊な治療器で自分で治してしまう。

(14)異星人はテレパシーの能力が発達しており、言語は一惑星につき一種類の言語が存在するけれども、彼ら同士は口でしゃべることはあまりなく、大体に無言のままでテレパシーにより会話を行う。これは声を出してしゃべると肉体のエネルギーを消費するからである。

世界に例のないアダムスキー全集

別な惑星に関してアダムスキーが伝えた実態は以上の他に沢山ありますが、詳細はアダムスキー全集（全七巻。文久書林発行）に述べてありますから、それをお読み下さい。

この全集は第一巻『宇宙からの訪問者』が主体をなし、続いて第二巻『UFO問題の真相』で、先に述べた太陽系とブラウン管との比較、UFO（宇宙船）の推進理論などがおもに述べてあり、第三巻『UFOとアダムスキー』では、彼が大母船に乗せられて金星へ行き、そこでかつて地球上で彼の妻であったメリーが金星人の少女として転生している姿を見て、彼女と劇的な会話をかわす場面が描写されている『金星旅行記』と、壮麗きわまりない土星の光景を述べた『土星旅行記』その他が収録されています。

第四巻からは哲学的な分野に入り、四巻が『宇宙哲学』、第五巻『生命の科学』第七巻『アダムスキー論説集』となっています。

この邦訳版全集は世界に例のないもので、アダムスキーの母国であるアメリカはおろか英語圏のいかなる国でも全集のかたちで出版されたことはなく、彼の著作の個々の単行本でさえも他国ではかなり影をひそめているのに、日本だけでこれが刊行されて広く読まれているというのは一種不思議な気がします。

テレパシックな日本民族

そういえば米カリフォルニア州でアダムスキーの単独支持活動を続けているダニエル・ロス氏によりますと、アダムスキーのいわゆる宇宙問題について最も寛大な国民は日本人とメキシコ人だけだということで、ずっとむかしアダムスキーが講演旅行でニュージーランドへ行ったときにも現地の人に伝えた話として、日本人は世界で最も特殊なカルマ（宿命）を持つ民族だと言ったということですから、日本人は天性特殊な民族なのかもしれません。

そうです、日本人は特殊な民族なのです。私が数十年にわたってアダムスキー支持のGAP活動を続けながら世

界を歩きまわり、各国のコーワーカーや多くの研究家たちと接触して知った限りでは、アダムスキーの宇宙的な哲学、特に『生命の科学』や『テレパシー開発法』をよく理解して実践できるのは東洋人、特に日本人です。近来はこの感をますます強くしています。

私が尊敬する外国のあるアダムスキー支持者が病弱で困るというものですから、『生命の科学』に述べてある反覆思念法やイメージ法を実践しなさい、病気は人間の強烈な想念によって必ず治るからと伝えたのですが、そこまでは理解しなかったようです。病気というものは人体内の物理化学的な異常によって起こるのだから病院で物理化学的な治療を受けなければ治るものではないと思い込んでいるのでしょう。

一方、東洋人は昔から想念と肉体との関係をよく知覚しており、それなりの哲学や思想が発達したのですから、東洋哲学に似ているアダムスキー哲学を理解しやすいのでしょう。

アダムスキー全集は国内でかなりの有名人や芸能人、評論家などに〝ひそかに〟読まれているようですが、この人たちは内容についてコメントせず、沈黙を守っているだけです。しかしどちらかというと、この人たちがひかれるのはアダムスキーの哲学にあるようです。出版社によりますと、全集のなかで最もよく売れるのは第一巻『宇宙からの訪問者』と第五巻『テレパシー開発法』だということです。

なぜ『テレパシー開発法』がよく読まれるのか、理由がおわかりですか？

それはこうです。日本人は本来テレパシックな民族なのです。以心伝心とか腹芸というのは日本人特有のもので、目と目を合わせて微笑してうなずき合い、簡単な言葉を交わすだけで互いの意志が通じますが、白人はこんな無言劇は苦手で、自分の語る言葉だけでは不充分だと思うのか、身振り手まねを加えて説明します。むつかしい民族学的な理論をまつまでもなく、日本人の抜群の感性というものを毎年海外から帰国するたびに感じるのです。話がそれてしまい、日本人礼賛論になってしまいましたね。

奇跡を起こすアダムスキー哲学

さて、問題はアダムスキー哲学です。過去に多くの宗教や哲学や心霊問題をも遍歴した私にとって、これほどに宇宙的な想念を起こさせる深遠な思想を知りません。もちろん一個人の価値観が万人に通じるはずはありませんから、私にとって最高の哲学であるといっても他人には無価値であるかもしれません。しかしアダムスキー哲学は他の哲学、特に西洋哲学に見られる観念論とは全く異なって、人間個人のフィーリングを大宇宙の彼方にまで拡大させて万物一体感を起こす力をもっています。重要なのは、こうした実際的なフィーリングを起こさせるばかりか、そのフィーリングによって、自分の運命を良き方向に変えますし、肉体に故障があればそれを治す点です。その他、望ましい物事を奇跡的に生ぜしめる力を発揮するようになります。西洋哲学はアタマのなかで理論をひねりまわすだけのコトバの遊びという感じがしますが、アダムスキー哲学は個人の肉体や運命を根本から変えてしまうような強烈な想念をわき起こす宇宙的な力を生じさせます。

これを最も平易に解説したのは『生命の科学』で、この中には人体細胞に関して科学で未発見の理論が述べてありますし、またテレパシー現象が発生する理由は『テレパシー解説法』に詳述してあります。

いまこれらの書物をここで詳細に解説する余裕はありません。くわしくは同書をお読み頂くことにして、断言できるのは、これらの書物を研究し実践することによって、実際に奇跡を起こしたり、テレパシーの能力を開発する実例があるということです。

たとえば、福岡市在住の日本GAP会員でアダムスキー哲学の熱心な実践家である西本有水子さんからの最近の報告によりますと（六月十三日付）、彼女がご主人の運転する自家用車の助手席に並んですわり、後部座席に二人の小さい娘さんを乗せて、高速道路を時速九十キロで走っていたとき、突然前方に犬が現れて道路をゆっくりと横断するので、これを避けようとしたために右側のガードレールに激突して車の前部は大破したというのです。

ところがこの事故発生の約二十分前に、有水子さんが急に「シートベルトをつけよう」という気になって、自分がまず着用し、いやがるご主人にも無理矢理つけさせたのが幸いして、二人とも全くケガをせずにすんだし、後部座席にいた娘さん二人はシートを前に倒して仰向けになって寝ていたために全く無傷でした。警官が調べに来たとき、ケガ人が全然いないので不思議そうな顔をしていたということです（本号『Uコン広場』を参照）。

事故を避ける予感テレパシー

有水子さんが事故の少し前に「シートベルトを着けよう」という気持ちを起こしたのをただの偶然だと考えれば、人間が事故をのがれるのはすべて偶然ということになりますが、むかしニューヨークの地下鉄で大惨事が発生して多数の死者が出たとき、その日に限って今日は乗らないほうがよいという印象を得て助かった人（黒人が多かった）もかなりいたということですから、有水子さんの場合は明らかにテレパシックな予感を起こしたと言えるでしょう。こうした予知・予感によって危険をのがれた例は世間にずいぶんあります。中国での戦争や太平洋戦争に従軍した人たちのあいだで、不思議な運命をたどったという実例が沢山ありましたね。

したがってテレパシーというのは他人の想念内容を感知するばかりでなく、自分の前途に横たわっている危険や事故をそれとなく予知して、適切な行動をとるという利点もあるわけです。いずれにしてもテレパシーは発信よりも受信のほうがむつかしく、この能力開発には忍耐強いトレーニングを必要とします。現在日

本GAPは毎月東京で開催される月例研究会でテレパシー開発トレーニングを実施して成果をあげていますし、地方支部の月例会でもトレーニングをやっています。テレパシーに関しては全集第五巻の『テレパシー開発法』を熟読して下さい。

金の原子に関する大発見

アダムスキー哲学で根幹をなすものは、自分の肉体の属性であるマインド（心）を、肉体内部に充満している〝宇宙の意識〟と一体化させて、〝意識〟から来る印象に従うことだという点にあります。

この〝意識〟というのは普通に用いられる意識という語の意味とは異なるもので、大宇宙に遍満している〝宇宙力（コスミックパワー）〟または英知ともいうべきものであって、これは人間を初めとして万物に宿っています。哲学者によっては、そんな宇宙の意識などは宇宙空間に存在しない、あるのは偶然性だけだと言う人もあります。アダムスキーによれば、万物は原子から成り立っていますが、この各原子核の中にスパーク（生気または魂）が存在していると言っています。これも宇宙の意識のあらわれです。

こんなことは現代物理学でまだ理論づけられていないために、アダムスキーのドグマ（独断的見解）とみなされるかもしれません。

しかし最近、意外な事実が発見されました。今年三月三十日付の新聞によりますと、日本の新技術開発事業団の林超微粒子プロジェクト基礎物性研究グループのリーダーである飯島澄男博士が、大きさが十万分の一ミリから百万分の一ミリという金の超微粒子を真空中でシリコン酸化物の表面に付着させ、倍率二百万倍の電子顕微鏡からビデオテープに録画して観察したところ、常に固体であるはずの金のカケラがまるでアメーバのように十分の一秒という短時間で次々と形を変えていることがわかったというのです！

これは電子顕微鏡の電子線のエネルギーが引き金になって金原子が活性化するためと見られているけれども、すべての金原子がいっせいに配列を変える現象は謎だということです。

どうやらアダムスキーの原子核にスパーク（生気、魂）が存在するという説は間違いないようですね。つまりアダムスキーの科学的哲学的な諸説はどうみても立証される方向に動いている、としか言いようがないのです。

それはそうでしょう。彼の宇宙的体験はもちろん哲学的な諸理論も、もとをただせば彼の独創ではなく、はるかに偉大な発達をとげた別な惑星の人々から伝えられた知識だというのですから――。

ここに私たちがたまらない魅力を感じる一つの理由があるのです。現在までの哲学はすべて地球人の頭からひねり出されたものですから、道理でいくら研究しても宇宙的フィーリングは起こってこなかったわけです。だからアダムスキー哲学は他の哲学や宗教とはまるで次元の違うものだと言えるのです。

マインドと〝宇宙の意識〟との一体化

アダムスキー哲学では人間の想念の力やフィーリング、肉体内部からわき起こる印象などを重視しています。そして万物がすべて〝宇宙の意識〟によって形成され生かされているといいます。これを宗教的に表現すれば「万物に神が宿る」とも言えるでしょう。しかしアダムスキー哲学は宗教とはいっさい関係ありません。つまり人間の外部（これを哲学用語では外界（がいかい）といいます）に超越的なもの（つまり神のようなもの）を設定して、それを礼拝したり寄りすがったりせよというのではなく、人間の内部（これを内界といいます）に宇宙的な力（パワー）が満ちているので、それに気づいて、分裂と混乱で明け暮れしているマインド（心）をそれと一体化させればよい、そうすれば内部の〝宇宙の意識〟から正しい印象の声を聴くことができて、テレパシックな人間となり、間違いのない人生を送れるようになる、というわけです。ここには宗教にありがちな束縛や恐怖などは一切存在せず、完全な自由があるだけです。それは宇宙的な自由です。こうして〝宇宙の意識〟の世界にのめり込んでしまうとよいのです。

〝祝福〟の想念がカギ

宇宙に遍満する〝宇宙の意識〟（これを創造主と呼んでもよいでしょう）は、万物を創造するのに、もとは完全に調和した状態にある、完ぺきに創られたものの青写真を描いていたにちがいありません。だから人間はより完全なものを目指して向上しようとするわけです。この空間の青写真らしきものに何となく気づいて、これをイデアと呼んでいたのはプラトンやアリストテレスですが、なにせ二千年以上昔の哲学ですから、引用はやめましょう。それよりも現代の私たちは、もっとわかりやすい言葉で解説された、実践できる哲学を身につける必要があります。

高貴な異星人のような生き方をするには、何が最も重要か、という質問に答えますと、それはアダムスキー全集の到る所に述べてありますが、特に第二巻『UFO問題の真相』の一二〇頁第一行に、「彼らは（異星人たちは）いかなる人間の集まりのなかへ入っても祝福の心を持たないで座ることはできないという意識的な知覚力を有している」とあります。

問題はこの〝祝福（ブレッシング）の想念〟にあるのです。万人や万物にたいする祝福の想念です。アダムスキーによれば、人間が想念を起こすと、それは無数の荷電粒子となって空間のあらゆる方向に火花が散るように進行してゆくということで、その荷電粒子の放射やキャッチによって遠方の人間とテレパシーの交信が可能になるというわけですが（もちろん想念波動を形成するこの荷電粒子なるものはまだ科学的には未解決です。アダムスキーはおそらく異星人から聞いたものと思われます）、特に祝福の想念というのはきわめてエネルギーの強い高周波の精緻（せいち）な波動になるらしく、これが外界に放射されると、何らかの理由で放射した本人が逆に〝祝福されるような状態〟になるのです。

祝福という言葉は宗教的に響くかもしれませんが、これも宗教とは全く関係ありません。「祝福」という言葉以外に適切な表現がないのでこれを用いるのです。

しかも祝福の想念こそ大宇宙に直結して、その内部に存在する万物に良き影響を与える強力な〝放射線〟であるらしいのです。科学では未解決ですが、このことは間違いないでしょう。

私自身の体験を例にあげますと、以前は都内のタクシーに乗るたびに、料金を受け取ってもモノも言わぬ横柄な運転手さんばかりの車に乗っていました（東京のタクシーは悪名が高いのです）。

ところが万物にたいする祝福の想念を本格的に強烈に放つようになってから、不思議にも親切で善良な運転手さんの車ばかりに乗るようになりましたね。これは不可思議な現象であって、私がテレパシックな状態でそのようなタクシーだけをつかまえるのか、それともそんな車だけが私に引き寄せられるのか、そのあたりの因果関係はよくわかりませんが、〝祝福〟の想念波動が原因をなしていることは間違いないでしょう。

どんなに憎たらしい人にたいしても、憎悪の想念を祝福の想念に変えて、それを相手に放射し続ければ、奇跡的に相手が変化し、自分も変化することは、すでに少なからぬ実例でわかっています。「人間の放つ想念によって、本人はどのようにでもなる」というのは宇宙の法則の一つでしょうね。

現代の科学は万能ではない

以上述べた事柄を現代の科学に照らして、「科学で解明されていないことばかりで、すべて非科学的だ。信ずるに足りない」と言う人にたいしては、工業技術院のロボット研究者として世界最高レベルにあるといわれる中野栄二博士の言葉を引用しましょう。ロボット研究によって科学信仰がますます強まるかという新聞記者の質問にたいして、博士は次のように言っています。

「とんでもない。逆ですね。科学がどうしても到達できぬ人間の限りなく偉大な能力、いや、人間ばかりでなく、大自然が生んだ、生きとし生けるものへの畏怖の念に打たれて――。ロボット研究を通じてあらためて知らされたのは、人間の尊厳さ、自然の揺るがぬ摂理（法則）ですね。

浅薄な科学技術で、生命あるものを容易に理解する、征服するなど、とんでもない笑止千万な思い上がりです。

地面を五センチも掘れば、土の温度の微妙な変化や土壌に生きる数十億もの微生物に気付きます。この不可思議な宇宙の生命は、科学の力などをはるかに超えています。科学万能とは傲慢なタワ言にすぎませんね」（傍点は筆者による）

博士はくり返し自然を賛美し、家庭菜園の楽しみを語るということです（読売新聞六月十一日付夕刊）。

これは要するに現代の地球のレベルの科学では大宇宙の驚異や謎などは解決できないという意味であって、もっと謙虚になれと諭しておられるのでしょう。科学を否定せよという意味ではありませんね。

宇宙哲学の実践法

アダムスキー哲学（宇宙哲学ともいう）の実践法として、私の知る限り、その中心となる方法は大要次のとおりです。

(1)まず自分を中心として周囲の目に見えるあらゆる物――人間、生物、物体など――を、すべて原子のかたまりであると認識します。これは物理学上間違いないことです。路上を歩く見知らぬ人たちや家々、道路、樹木、電車、バス、自動車、その他のあらゆる物を、すべて無数の原子群の凝集体であるとみなします。

(2)この原子群のいずれにもスパーク（生気・魂）が宿るので、一個の個体はスパークの凝集体です。この原子群を凝集させて、これに宇宙的秩序を与えているもの、というよりも宇宙的秩序自体が宇宙の意識であることを認識します。そして自分も宇宙の意識体であることを自覚します。この秩序については、量子力学の創始者で原子物理学の基礎を築いたシュレーディンガーが「一個の生物体の一生の中で繰り広げられる出来事は、生命をもたないものの中でわれわれが出会う如何なるものも遠く及ばない〝実に感歎すべき規則性と秩序〟とをあらわしている」と言っていますが、この規則性と秩序を宇宙の意識と呼んでよいでしょう。この秩序は生物だけでなく無生物にも及ぶものです。

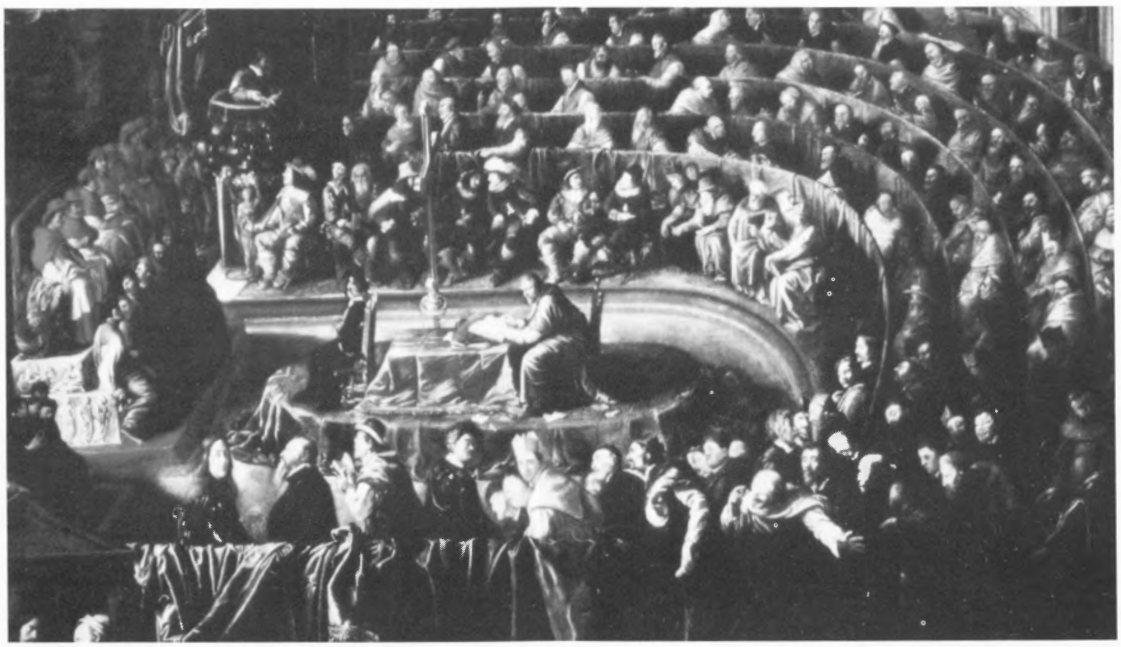
(3)したがって万物は（空気さえも）宇宙の意識体そのものであり、しかも宇宙の意識は万物が生成発展して完全になるようにとの〝祝福〟の想念を含んでいる、というよりも宇宙の意識イコール宇宙の祝福の想念であるということを認識します。

(4)そうなると、自分自身が宇宙の祝福の想念波動の大海の中に生きているというフィーリングが発生してきます。

(5)このフィーリングを高揚させ続けると、自分がいかなる環境、いかなる場所にいても、周囲のあらゆるもの、あらゆる人、あらゆる無生物すらも、燦然と輝く宇宙の祝福の光であるというようなフィーリングが生じるようになります。

(6)そこで自分も宇宙的な祝福のフィーリングを放射し返して、周囲の万物と一体化します。言い替えますと、家にいるときは家屋や家族という祝福想念体に自分が包まれており、道を歩くときは大勢の人々、道路、周囲の建物群やその他目に見える範囲の万物という祝福想念体に自分が包まれており、バスに乗っているときはバスと乗客群という祝福想念体に包まれているというようなフィーリングを起こし、こうして「**自分が行動するときは常に周囲にあらゆる種類の祝福想念体が微笑して自分を包みながら一緒に存在している**」というようなフィーリングを起こすと共に、自分も微笑して祝福の想念を万物に放射し返すのです。そしてその想念波動を周囲の環境から地球全体へ、太陽系全体へ、銀河系全体へ、というふうに限りなく大宇宙空間へ拡大してゆきます。

(7)この宇宙的フィーリングを常時失わな



●ガリレオの宗教裁判

地動説をとなえたコペルニクスを裏付けたガリレオ・ガリレイは、1633年にローマで宗教裁判にかけられて、地動説は誤っているという宣誓書を書かされ、謹慎を命じられたが、判決後に「それでも地球は動いているんじゃ」と有名な言葉をつぶやいた。中央書記官のテーブルの前に座って目をつぶっている黒服の男がガリレオ。

いようにしていれば、自分自身に驚くべき奇跡が発生します。

(8)職場などでトラブルを起こしがちな問題の人物がいれば、それにたいしてひそかに祝福の想念と相手が善良な人間になったイメージ――レーザー光線のような強烈な想念とイメージ――を撃ち込めば、その人物は奇跡的に変化して穏和な善良な人になってきます。そうなるまで撃ち込みを続けるのです。

(9)自分の望ましい物事を実現させるには、以上に述べた万物一体のフィーリングと祝福の想念を基盤にした上で、「必ず実現する！」という強烈な信念を持ち続ける、すなわちミラクルワード（奇跡を起こす言葉）をとなえ続けるか、またはすでに実現してしまったイメージを鮮明に心中に描き続けると、本当に実現します。このことはすでに本誌で何度も解説しましたから、詳細を述べませんが、要点だけを紹介します。

(a)大学病院などで見放された難病、たとえばガン、リューマチなどを治すには、まず自分自身を祝福想念体にし、周囲の環境のすべてを、万物を、創造主の祝福想念体とみなして宇宙的な喜悦のフィーリングを起こします。

(b)次に、自分が確実に健康体になったイメージを心中に鮮明に描き続けながら、「治る、治る」という言葉を数千回、数万回も続けてとなえると、想念が肉体細胞に与える影響により、肉体に変化が生じて、本当に治ってくるのです。

ただし骨折その他手術を要する故障や医学治療で治る病気は科学の恩恵に浴すべきです。

以上の望ましい物事を奇跡的に実現させた実例はGAP会員のあいだで多数発生しています。ガン、リューマチ、心臓病その他の病気が治った例もありますし、お金がなくても二百万円もする自家用車をポカッと入手した人、あるいはイメージどおりの理想の女性と結婚した人もいます。また若い男性で、体重が八十キロを超えるほどもあった人が、やせたイメージを描き続けることによって、六十キロまで減量に成功したという体験を東京月例会で語ったことがあります。

この宇宙哲学実践法について述べたいことはまだ山程ありますが、紙数の都合でこれだけにします。この哲学は単なる観念論ではなく、現実の世界や自分自身に何の関係もない抽象的論議でもありません。人間や社会を生かす実際的な理論です。

三百五十年前のガリレオ・ガリレイの宗教裁判以来、科学は長足の進歩をとげましたが、人間の精神面はまだ当時の聖職者裁判官たちの域を脱していないように思われます。アダムスキーの宇宙的哲学はいかなる宗教や哲学のティーチングとも異なるもので、以上に述べた実践法は、人間の想念と肉体との関係、デカルト以来の二元論を打破した意識と物質との一体性などの認識が確立されると思われる来世紀の精神科学を先取りしていると確信します。

説明不足のため納得がゆかないかもしれません。詳細については東京月例会で解説講話を行っていますから本誌四〇頁の案内をご参照の上、ご来場下さい。

投稿欄 ユーコン広場

素晴らしい静岡支部大会の講演

東京　佐々木八郎

先日の静岡支部大会では、素晴らしい御講演をお聞かせいただき、ほんとうにありがとうございました。久保田先生のお話が進むにつれて私のフィーリングはどんどん高揚していきました。ふつう他の人が汗をかくときに私はほとんど汗をかきません。暑くても運動したときでも汗はほとんどかきません。理由はわかりませんが。

しかし先生のお話が「ひそかに人に知られないように、だまって祝福の想念を送り、日本GAPは祝福の想念放射体の集団になろう」というところにさしかかってきたとき、私の体の細胞の一つ一つが内側から力(光)を出し、体が宇宙的想念に満たされ、エネルギーでいっぱいになり、熱くなっていくのが自分でもわかり、汗がでてきました。

夕食会の半ばまでこのフィーリングは続きました。それはまるで原子核の中の魂がスパークしているようでした。私にとってはこのことは奇跡的なことでした。このときのフィーリングを忘れないようにして、スペースプログラムに積極的に協力していきたいと思います。また自分自身も高めていきたいと思います。

久保田先生、ありがとうございます。先生のあのあたたかい宇宙的な祝福の握手をわすれません。静岡支部のみなさん、静岡支部大会に参加されたみなさんの宇宙的なフィーリング、想念に感謝しています。また上空からよせられました高貴な優しさにあふれた想念に感謝しています。

今もまだ、あの静岡支部大会のあの会場にいて久保田先生のお話を聞いているかのような気分がしています。久保田先生のミラクル・スピーチをまたお聞きしたいと思います。

話は変わりますが、前の日の4月27日に静岡支部報を読みかえしていましたら、突然「明日の大会にはぜひ参加しよう」という気持ちになり、行こうと決めていました。そしてこのようなすばらしい宇宙的な体験が得られたのですから、もう何も言うことはありません。ではつぎの宇宙的な出会いまで、さようなら。

きわだっている日本人

在ニュージーランド　橋本由紀子

お元気ですか。連絡が遅れて申し訳ありませんでした。無事、オークランドに着いたのはいいのですが、なかなか落ちつき先が決まらず、四週間、小さな家族で営んでるプライベートホテルで暮らしながら、アパートを探し、今住んでいる家を見つけました。この家には二歳、六歳、八歳の子供たちと、そのお母さん、それからもう一人、街につとめているサラリーマンの計六人で住んでいます。バス、トイレ、キッチン、リビングルームを共同で使っています。

私はここに来て何をしてるかといいますと、働いてます。月、火、水、木が午前九時から午後五時半で、金が午前九時から午後九時、オークランドで最も大きいスーペニア・ショップです。シープスキン、ラムスキン、ウール製品、マオリの彫刻その他おみやげを売ってます。JALだのJTBだの日本旅行だの、日本人のツアーがドドッとやって来て店中をひっくりかえし、山程買ってゆきます。特にハネムーンで来ている新婚カップルの買い方は驚くばかりで、皮のコートをまとめて五着だの、チョコレートを段ボール一箱分だの買ってゆきます。何と今日来たカップルは木彫を25キロも求めて二人で持ってゆきました。日本人以外のお客で皮やウールを買う人などごくまれで、ステッカーとかキーホルダーなどちょっとした小物類しか買いません。この店は日本人で成り立ってると言っても過言ではありません。そういうお店なので日本人スタッフが必要でフルタイム働かされています。毎日日本人ばっかり相手にしていて仕事は面白いとは言えませんが、せっかくニュージーランドに来たのだから、精いっぱいこの国を吸収するようがんばりたいと思っています。

だけど私はここに来てとてもよかったと思っています。ニュージーランドに流れている雰囲気をいとしいと感じます。人々がみな親切なせいかも知れませんし、自然がとても美しいせいかも知れません。よけいな日本語が頭を通過しないせいかもわかりません。創造主を身近に感じています。このあいだ『生命の科学』の第八課を読みました。アダムスキーの言葉が頭の中で異和感を全くおこさず、ずーっと体の中に入ってゆくような感じがしました。また、ヨーロピアンの生活をしてみて、日本人というのは本当にきわだってどこの国とも異なったものを持つ不思議な民族だなあと思います。おみやげの買い方もきわだってますけどね。

ところで、図書館でアダムスキーの『宇宙からの訪問者』の原書を見つけました。今『宇宙船の内部』の方を読もうとしているところです。先生の日本語訳はとても素晴らしいと思いました。私、先生が訳された第十一章の日本語が美しくて大好きです――ファーコンの「遠い昔、私たちは信念の力……を学びました」というところが。この国のどこかで誰か日本GAPのメンバーのように〝宇宙の真理〟を意識してる人がいるでしょうか。アダムスキーの語ったことを理解していて彼にならおうとしてる人はいるでしょうか。実際に本は出版されていて図書館にもあるのですから、いるはずじゃないかと私は思ってしまいます。もしいるのなら会ってみたいと思ってしまいます。先生、おねがいです。もしニュージーランドのGAP代表者をお知りでしたら教えて下さい。ニュージーランドはアダムスキーが講演旅行をした時は政府も後援した国でしたね。それらにかかわってきた人たちに会えるものなら会ってみたいのです。それでは今日はこの辺で失礼します。これからも創造主の祝福のもとに美しい日々をすごして下さい。

星々への旅

宇都宮市　菊地啓子

静岡支部大会では大変ありがとうございました。今まで何度となく聞いてきた事が心の奥までしみこんで来た様でした。頭での理解を越えて理屈ぬきで感じられ、個人的にあった色々な事のモヤモヤが吹き飛び、たった今からGAPの一会員として出なおしだと、ふるい立つほどの勇気が湧いてきました。イメージを描く事で世界を変えることも可能であるという話は、実行力に引け目を感じている私にとって光です。どんな所にいようとも平安で調和のとれた世界をイメージする事は可能です。(この事は昨年のイスラエル旅行で自分なりに学んだ事でした)。想念の力や信念の力を知る人間は悲観的、利己的な想念を発してはいけない。また発する事のない様に努力すべきだと思います。困難でしょう。しかしやらなくてはならないと感じます。社会から逃げたり目をつぶって汚点を見ない事とはちがいます。和して同ぜず。私はG・アダムスキー氏や久保田先生から伝えられた哲学が宇宙の不変の真理だと信じます。それ以前の偉人からの言葉でも信ずるものがあります。どちらも唯一真理ですから。

望めばその通りになる。親切で思いやりがあって、明るい仲間たちと星から星へ旅をする。スクリーンには、はるかな星雲や新しい太陽系の姿が映り、幼な子の惑星に勇気ある人々が降りてゆく。指導者の一人と話をする。「また会えたね。あの時は楽しかった」。流星が近づいて来て、ゆっくりと同じ場の中へ合流する。連絡用の小型船が数人の人物を乗せている。別の惑星系の人々らしい。

対面すると私の内奥に新たな宇宙が広がり、歴史と知恵が流れる。数人が自ら望んで別の母船へと渡ってゆく。あちらからも来る。再び分立すると生き生きとした光体となって旅立ってゆく。――SFなんて言われない時がいつか来ますね、きっと。どうぞお元気で。ありがとうございました。

感動の松山支部大会

山梨県　清水　南

松山支部大会ではすばらしいご講演をいただき厚く御礼申し上げます。先生の御講演により高松事件がGAP活動と密接に結びついていることが良くわかりました。又この活動が宇宙に対する地球全体の開放と、世界平和をめざすという目的を持つというお話をうかがい、私は大きな使命を感じると共に更に実践精進しなければならないと思いました。

この大会では先生はじめ伊藤さん、会員の体験講演をされた西本さん、そして奈生ちゃん、全国各地から参加された会員の方々のすばらしいフィーリングに包まれて大成功であったと思います。夕食会も日本庭園を前にしての日本料理の数々で充分堪能させていただきました。更に二次会では先生より数多くのお話や質問等にも懇切にお答え下さり大変ありがとうございました。また翌日の観光旅行では四国の春を大いに満喫させていただき、この大会を実施された伊藤様はじめ松山支部の皆様に感謝しております。

これからも東京月例研究会や地方支部大会等へは出来るかぎり参加して勉強させていただきたいと思いますのでよろしく御指導下さるようお願い申し上げます。

すごい本誌89号

福岡市　西本有水子

春だ春だと思っておりましたら、今日など初夏のかおりがする風がふいています。過日は松山支部大会でのご講演ありがとうございました。また写真のお礼をと思いつつ今日になってしまいました。松山での支部大会後、職捜しに心ここにあらずという雰囲気でしたが、これではいけないと思い、またもや意識の指導の声を忘れていたぞと思い直し、あわてぬことにいたしました。

昨日『UFOコンタクティー』89号が手元に届きました。もう、感激です！　何という素晴らしさ、迫力！　こんなすごい本が日本にあると思うと血沸き肉躍る思いがいたします。まず巻頭言にある先生のお言葉と信念にはいつもながら感銘を深くいたします。思えばこれまでの数十年間、ずっとこの巻頭言にて、迷妄の闇にあがき苦しんでいる地球の人々に、一条の光をと不屈の信念を吐露されてきたのだと思うと胸に迫るものがあります。本当に私達GAP会員が安穏と（？）スペースピープルからの教えを読み、聞き、実践できるのも、先生の身を挺しての闘いがあったればこそと感謝の言葉もありません。先生がどっしりと中心に構えておられると思うと、私達は安心して活動できるような気がいたします。ですからお体を大切に、いつまでもいつまでも地球に真に平和な世界が実現する日まで私達GAP会員の重鎮としてご指導下さい。

また89号の遠藤さんの宇宙文字解読の記事には驚きのあまりアッケにとられてしまいました。これこそア氏の体験の真実性を示すものであるという以外に何といえましょう！　大切なところはボカしてあると先生がおっしゃっていましたが、多分ボカしたとしても世間に与える衝撃は大変なものがあると思います。それに静岡支部のメンバーの方々のテレパシーコンタクトのすごさにも驚きました。メンバーの方々の今後いっそうのご精進とテレパシー能力の開花に期待したいと思います。その他『Uコン』の今までの様々な情報ともあわせて考えると、本当に思ったよりも早くその時が近づいているのだと実感いたします。まるで口裏をあわせたかのように進行している種々の事件や事実が、その方向をはっきりとさし示しているように思えます。私ももっと足元をみつめて、自分には今何ができるのかを、もっと真剣に考えてみようと思っています。その意味でも今回の『Uコン』89号は大変示唆に富んだ素晴らしい出来であると感銘を深めました。これからも、ますますGAPは底力を出してゆくものと思われます。先生のご活躍をお祈り申しあげます。

真実の人、ダニエル・ロス氏

茨城県　清水勝一

過日の茨城支部大会には御多忙中にもかかわらずお越し頂き、また度重なるご講演とご指導を頂き大変ありがとうございました。夜遅くまでの質疑応答や普通お聞き出来ないような重要なお話をして頂きまして本当にありがとうございました。なにしろ第一回の支部大会でありまして何から何まで初めてのものですから、かなり不備な点やご不満な事があったかと推察致します。それにもかかわらず温かいご指導を頂きまして、本当に先生は寛大で立派な方だなあと、改めて思いを致した次第です。それから素晴らしい記念写真をどうもありがとうございました。いつまでも残る記念写真として大事に飾っておきたいと思います。どうもありがとうございました。またお手紙では過分のお言葉を頂き恐縮しております。私の様な未熟な人間にあのようなお誉めを頂きますと穴にも入りたい気持ちです。先生のおっしゃる様な人間になるよう今後も努力致しますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

次に『Uコン』89号につきまして感想を述べさせて頂きます。いずれも素晴らしい記事で感動しましたが、私はダニエル・ロス氏の記事に興味を覚えました。氏の目撃報告を読みますとスペース・ピープルがロス氏を援助している様に感じられます。また氏のアダムスキー問題に対する態度が非常に誠実であると思います。それは新聞社のインタビューの部分と「私はフリーランサーであって、部分的に真相しか扱わない個人やグループの援助を得たいとは思いません。というのは私は宇宙から来る訪問者たちについて語るだけで、アダムスキー氏がもたらした完全な真実を語るだけです」――ここに非常に感動しました。氏は真実の人と思います。氏が先生と交流を続けられる事は日本GAPにとって非常なプラスだと思います。氏のUFOの著書の紹介を計画されているそうですが心待ちしております。また原書が購入出来るようでしたらその時はよろしくお願い申し上げます。

シュレーディンガーの『生命とは何か』に感銘

名古屋市　高原登茂子

静岡、茨城支部大会では素晴らしいご講演をありがとうございました。また海外旅行の説明会ではとても楽しく過ごさせて頂き、帰りの新幹線の中まで愉快な雰囲気は続きました。

実は今年の三月中旬からなぜかマインドが不安定になり始め、ここ一週間はひどいノイローゼで身の回りのことも満足にできず寝込んでいました。『生命の科学』を開いても眼は同じ行を壊れたレコードの様に行ったり来たりするばかり……。ついには言葉もろくにしゃべれなくなりました。半日布団の中で自分の内部に向かって「ごめんなさい、ごめんなさい」と泣きながら反省していた事もあります。恥ずかしいのですが私は『生命の科学』に出合う前、悩み抜いていたあの姿に戻ってしまったのです。昨日から会社で一人で何もかも調べてこなさなくてはいけない仕事をいただき（素人向けのコンピューターのプログラムを組んでいます）、誰の干渉もなしに自由にできる気楽さに満足したせいもあって、少しずつ正常な状態に立ち返りつつあります。

今日は河隅太子さんから電話がありました。彼女はさすが私よりGAP歴が長いだけあって、すっかり落ち着いていました。名古屋支部月例会に歴三年の女性が加わったそうです。彼女は『生命の科学』に出会っ

たその日にUFOを目撃したそうです。名古屋支部は最近急にニギヤカになって来たとよく言われます。

去年かその前の年位から地球的規模でまたは宇宙的規模でかも知れませんが、「もう準備はととのった、サア新しい時代が始まった。安心して前進して良いのだ」という強い印象があります。昨年の総会で更にこの感は強まりました。日常のちょっとした事でマインドが低迷しそうになった時、私はいつも地球の未来を考える様にしています。するとなぜか心がウキウキとして来るのです。

昨年読んだシュレーディンガーの『生命とは何か』に大変興味深い二つの事柄が書かれてありました。ひとつは先生もおっしゃった「秩序から秩序へ」という考え方です。もうひとつは量子飛躍の際に必要とされるエネルギーは、二つの分子の実際の準位差よりはるかに多いということです。ごく普通の分子がある時高エネルギーを供給された事によってその配列が変わり、しかも一度引き上げられた準位は熱力学第二法則に反して、再度何らかの衝撃を受けない限り二度と元には戻らない……。極微の世界でひんぱんに行われているこの突然変異と呼ばれる現象にも大きな示唆が含まれています。私は小さな分子を人間にたとえずにはいられません。同じ人間でありながら意識と一体化できずに十五～十六回の転生を繰り返しただけで消滅してしまう人がいるかと思えば、中には永遠の生を生きるわずかな人もいます。宇宙には何もかも元の状態に帰って行くという絶対的な方向性があります。ここらへんからエントロピーという概念（私はエントロピーとは、言われている様に量などではないと思います）が出て来たと思われます。意識に目覚めない多くの人々は一定期間の寿命をまっとうした後自然消滅するのです。では突然変異の様に真の生まれ変わりをし、安定性を持った分子の様に永遠を旅し始めた人々には一体何が起こったのでしょうか。それはアダムスキーの宇宙哲学との出会いであると思います。人間の生の中でこれ以上の衝撃はありません。ある人は円盤の目撃であったりある人は『生命の科学』であったりするかも知れません。ひとによってそれは様々な形で訪れるのですが本質には変わりありません。

シュレーディンガーは素晴らしいですね。『生命とは何か』は何十年も前に書かれたにもかかわらず、アダムスキー哲学の真髄に迫っています。ただひとつ惜しむとすればそれは彼が万物を生命ある物とそうでない物に分離させた考えから抜け切ってしまえなかった事です。この本のエピローグに彼らしい哲学が書かれてありますが、その中で「ただ一つのものだけが存在し、多数あるようにみえるものはこの一つのものの現す一連の異なる姿に他ならないものであり、惑る幻によってつくり出されたものだ」というくだりや、そのあと「自我」の探求に及んでいるところなどは私を愉快にさせてくれます。彼によって「自分自身を知れ」という名言の真実性をまた思い出させられたわけです。『生命とは何か』については感じた事をそのまま書いて行くと便箋がダンボール箱に一杯いりますからこのへんでおしまいにさせて下さいませ。

朝霧高原でUFOを見る

千葉県　岸本　悟

静岡支部大会ではすばらしい講演をどうもありがとうございました。祝福の想念を送るのに、どのようなフィーリングを持って行っていけば良いのかわかったような気がします。それから二次会や東京での夕食時等のお話で愛というものについて考えさせられました。私などは俗っぽい人間ですからそこらに変にこだわったりしますが、男とか女とかいう形で相手を見るのではなく、一人の人間として相手を見ることができれば、もっと宇宙的な愛を理解できるのかもしれません。人間と人間の交わりというものに対して、すばらしいなあという感じを持ちました。

ところで大会の翌日の観光でのことですが、朝霧高原をバスが出ようとする少し前に後ろの方が気になったものですから、後ろを振りむきますと、窓の外で何かが白く二回光り、小さな雲の中に入って隠れてしまいました。その時に、私の後ろの席で窓側に山口緑さんが座っていたので、そのものが雲から出てきた時にあれは何だろうかと彼に尋ねようかと思ったのですが、その時にバスが動き始め、確認が取れないうちに雲が見えなくなってしまいました。ですから文字通りのUFOということになるのですが、他の惑星から来られた方の乗物かどうかはわかりません。

なつかしいGAPへ帰りたい

北海道　石原博子

私は三年前にGAPを辞めました石原です。あの頃は本当に申し訳ない事をしてしまいました。本当に自分勝手なことをしてしまい恐縮です。どうもすみませんでした。それからもずっとGAPの事が気になっていました。しかしその気持ちを無視し続けていました。

この三年間には色々な事がありました。高校を卒業、就職、そして四月に退職したばかりです。家庭内でも色々あり、ようやく落ちついた感じになりました。私自身もようやく自分を取り戻せるようになって、色々感じたり考えたりできるようになりました。いい勉強になりました。つい最近の事ですが、掃除をしていましたら〝想念観察手帖〟が出てきました。そして「あっ、これだ！」と思い、早速その日から始めました。毎日、何かハリが出てきました。あの表紙はとても不思議なのです。なつかしい感じがします。

GAPをやめてからもアダムスキー氏の事が気になっていました。そして、J・クリシュナムルティの本を読んだりしていました。心は常に〝何か〟を求めていました。今、やっている事がどうも納得いかず、「自分のやりたい事は、もっと何か違うはず」と思い続けていました。そして手帖がきっかけでこの手紙を書く決心をしました。誠に自分勝手なお願いですが、もう一度GAPへ入会したいのです。今度は前の時とは気持ちも新たに、真剣に前向きに取り組んでいきたいと思っている次第です。どうかよろしくお願いいたします。勝手な事をしてすみません。この気持ちだけ分かっていただければ幸いです。ご多忙中読んでいただき、本当に有りがとうございました。これからもお体に気をつけてがんばってください。私もがんばります。

ぜひ入会を

山形県　寺嶋明子

はじめまして。書店で『UFOコンタクティー』を買い求め、日本GAPに入会させていただけたらとペンをとりました。私は今年二十四歳になりますが、今迄にUFOらしき物体を目撃したのは三回ほどあります。そんなことから様々な雑誌などを読んだりしてみましたが、数多くの情報がとびかうばかりで、自分の力では理解できずにいたところです。友人などにもUFOの話をするのですが、「子供じみてる」「馬鹿な」とか、相手にしてもらえないどころか笑われるばかりでした。UFOが関係あると思われる事件や体験のたぐいは知ってるつもりですが真相は全くわかりません。正直言ったら日本GAPの存在そのものが私にとってはショッキングなものでした。私のような者が皆様の仲間に入れていただけるか不安ですが、私も真相が知りたいのです。どうぞよろしくお願い致します。

科学的でわかりやすい講演

静岡県　赤池澄夫

静岡支部大会では素晴らしいご講演をしていただき、誠にありがとうございました。お話の中で、無生物から来るテレパシー現象の実話を例にして説明していただきましたので、人間以外のあらゆる物にも祝福の想念を送ることの重要性はよくわかりました。また、それを日常四六時中

起こすことの実践によって、自分と周囲の環に大変化をもたらすことは十分に考えられます。この素晴らしい方法を私も大いに応用していこうと思います。特に「祝福の想念は宇宙の意識の働きであるので、人間が祝福の想念を起こすことは共振現象を発生させて、さらに強力な波動を起こす」という重要なお話は、物理的な説明を入れてわかりやすく、大変に科学的だと思いました。

久保田先生から祝福の想念哲学をお聞きできまして、宇宙哲学がまた一段とわかりやすくなりました。これからも祝福の哲学をお話ししていただきたいと思います。

今度の大会があまりにも素晴らしいものでしたので、大会とUFOの関係のことはすっかり忘れていました。ところが、三次会のときに野口代表が、今、UFOを目撃したと皆の前で発表しましたので大変驚きました。なぜなら野口代表は、つい先ほどまでここで私達と一緒にいましたから、いったいいつ外に出て目撃されたのか不思議な気持ちになりました。そして三次会も終わり、店から出ましたら、今度は佐藤和枝さん達がUFOを目撃しましたので、あまり頻繁に出現するUFOには、ほんとうに驚きました。それから、翌朝はホテルから富士山の方に金色に光る飛行体を松山支部の伊藤代表の方々が目撃されたと聞きまして、またまた驚きました。翌日の観光は前日の天気がうそのような恵まれたお天気となり、加えて朝からのUFO騒ぎでほんとうに、いっぺんに目が覚めました。またなつかしい朝霧高原では、私も皆さん方と日本の美しい富士山を観賞しているときに、富士山頂の少し左側の空に何か黒いようなものが、少しの間じっと浮いているのを双眼鏡で発見しました。その大きさは山頂に建ててあるドームの五分の一～六分の一程度かと思われました。形はコッペパンのようなものに見えましたがはっきりしません。発見時は鳥かなと思いましたが、しかし鳥にしては別のものであるような雰囲気を感じましたので、やはり何か妙でありました。その物体はじっくり観察する余裕も与えずに富士山中腹あたりに鳥のように降下して見えなくなりましたが、その後まもなく野口代表は、富士山中腹より先ほどの物体が飛んでいくのを目撃しておりました。

あれが仮に鳥だったとしても、朝霧高原にやってきた日本GAPの団体を見つめるために、富士山頂の高い所が大変眺めが良いので、そこへ飛んできたのだろうかと思いました。しかしいまだに私は、あの鳥は何だったのだろうかと気になります。大成功の大会を終わってみて、宇宙の真実を探求することとUFOの出現に関して深い何かを感じさせられました。

印象に従って大事故回避

福岡市　西本有水子

過日は丁重なお手紙と録音テープを送って下さいまして、本当にありがとうございました。すぐにお礼をと思っておりましたところ、身辺にゴタゴタがいろいろ起きまして、すっかり遅くなってしまいました。申し訳ありません。

ゴタゴタの一つに交通事故がありまして肝を冷やしました。主人の運転する車で高速道路を九十キロで進行中だったのですが、突然、左ワキから犬が出てきて、それも飼い犬のせいかゆったりと横断しようとしていたもので、全くびっくりしました。近くに民家がたくさんあり、あれは常習犯ではないかと思います。それをよけようとして右のガードレールに激突したわけですが、全く運のよかったことに事故の起こる二十分くらい前に、急に私が「シートベルトをつけよう」という気になってベルトをつけ、主人にも、いやがるのをムリにつけさせていたのです。おまけに後ろの子供達は（シートを前に倒すと寝れるようになっているので）体を伸ばして寝ていたので、前のシートで頭をちょっとぶつけたくらいですみました。主人は少しバックミラーで頭をかすってケガをしたのですが、たいしたことはありませんでした。警察の方が、他にもケガした人がいるに違いないと思い込んで、ケガはないかとしつこく聞かれましたが、私と子供は全く何ともないので不思議そうにしておられました。

シートベルトの重要性は日頃から聞いて、私は運転の時必ず着用しているのですが、主人の運転の時は助手席にいてもめったに着用しなかっただけに、フッと来た印象に従って本当によかったと思いました。伊藤さんの言葉ではありませんが、今ごろは金星に（ならいいですが）転生していたかもしれませんよと、笑い話になりました。

この事故のことですが、主人が今の車に対する愛着が少なく、早く買い替えたいという気持ちがあったことや、当日やその前の想念とも関係があるように思いました。その意味でも物や人が放つ日常的想念の型とは全く違った宇宙的な線に沿った高次の波動をより強力に発することが必要であることを強く感じています。テレパシー受信のための受容性と想念放射の積極性とのバランスをとるために、まだまだレッスンがあるなあと感じています。

創立25周年記念 UFO写真展

日時　八月一日より七日まで。毎日午前十時より午後七時半まで。

会場　静岡駅ビル「パルシェ」五階展示会場。

主催　日本GAP静岡支部

後援　日本GAP

目的　現代の若い人たちに宇宙空間特に太陽系の地球以外の惑星群に偉大な文明が存在することを認識して頂くとともに、宇宙的なフィーリングを持って下さることを期待して、この写真展を開催することにしました。GAP会員のみならず、一般の人々にも観覧して頂けるように配慮しましたので勧誘して下さい。

●おめでた

去る六月三十日に東京・芝パークホテルにて日本GAP東京本部役員佐藤忠義氏と広島市の会員佐々木智子さんがめでたく結婚式を挙行。計八十名の盛大な披露宴にGAPより四十名が出席し、夫妻の門出を祝福した＝写真。前列左より四人目から篠東京月例会司会者（披露宴司会）、久保田会長、野口静岡支部代表（媒妁）、新婦の右より野口夫人、伊藤松山支部代表。前列左端は新婦の双子姉の朋子さん。

だれにもわかる生命の科学

――一九八二年版――

内容＝一九八二年度東京月例会における久保田会長の『生命の科学』講義。B6判・ケース付。

第一部／売り切れ　**第二部**～**第四部**／在庫有り・各価五〇〇円

送料／一冊七〇円・～三冊一〇〇円

申込先／〒二四一　千葉県船橋市松が丘平二丁目ルミハウスA-2　安藤澄雄　振替／東京二一五六一二五

第7回 静岡支部大会

●四月二十八日(日)
●富士市　ホテル「サンライズフジ」
●出席者　七十五名

雄大な富士山のふもと富士市で今年の静岡支部大会は久保田先生をお迎えして開催されました。北は北海道、南は九州からと熱心な会員の方々が多数参加して下さり、会場は始まる前から熱気に満ちていました。

高梨和明氏の司会で始まった大会は、久保田先生の大講演「宇宙哲学の生かし方」で最高潮に達した。スペース・ピープルからいただいたアドバイス「祝福の想念を放つ人間になりましょう」。この言葉は私達の心をふるい起こさせ、勇気と希望を与えてくれた。そしてGAP活動への意欲がより高まったのでした。夕食会の「久保田先生四半世紀の活躍」と題するスライド映写では、GAP活動二十五年間の歩みを拝見し、先生の偉大さをあらためて感じました。二十五年間本当にありがとうございました。

大会翌日の富士山周遊の観光では天気にも恵まれ雄大な富士山が一日中姿を見せていてくれた。田貫湖、朝霧高原、白糸の滝と自然の中でゆったりと楽しく過ごすことが出来ました。富士山周辺は、以前からUFOの目撃の多い場所として有名ですが、今回の大会でもまたその事が証明されました。特に松山支部代表の伊藤達夫氏は、三日間で十数回という多くの目撃をされている。そのほかに、石田氏、佐藤氏、佐々木氏、赤池氏なども目撃している。これらの多くの出現は何を意味するのでしょうか。それは、自分の仕事をなげうって二十五年間GAP活動で頑張ってこられた久保田先生への祝福と激励であったに違いない。

日本GAP設立二十五周年を記念して行われた今回の大会は、久保田先生を始め会員の方々の絶大なご協力により大成功をおさめた。また全国各地から遠路はるばる参加して下さった方々にも心より感謝申し上げます。

（野口敏治）

第1回 茨城支部大会

●五月五日(日)
●土浦市　サンレイク土浦
●出席者　四十七名

さわやかな五月の風が霞が浦を渡り会場を吹きぬける。ちょっと暑かったが、これは会場を埋めつくした会員の熱気のせいと思う。とにかく予想もしなかった多数のご出席に、茨城支部一同非常に感謝感激致しました。

大会は大沼氏の力強い司会で始まりました。久保田先生のご講演は「アダムスキー問題と世界の未来」で、我々が最も関心のある問題でした。いつもながらの力強いご講演、また宇宙的深遠な内容、そして時々発せられる先生独特のユーモアにより、リラックスの中に貴重なお話が展開し、時間オーバーも忘れる程の宇宙的フィーリングに包まれました。その概要は、①静岡支部大会での富士山の近くに出ていた月は実はUFOだったとの衝撃的なお話。②自分をあらゆる物を祝福する想念体とすること。③これからの世界の変動とGAPの役割等、とにかく具体的かつ詳細にお話し頂き、出席者全員、久保田先生の高貴な波動に共振し、高揚し、素晴らしい大会となりました。

翌日は絶好の万博日和（曇って雨が少しパラツキ、涼しい風が吹く状態。待つためにはこれが最高）となり、入場者も少なく、富士通初め六パビリオンを見学し、素晴らしい一日となりました。

最後に本大会に朝早くから来て手伝って頂きました篠、石川、石田、伊藤、染谷の各氏、茨城支部の皆様、そして大会に出席された皆様、万博協会の斉藤氏、そして日本GAP会長久保田八郎先生、また祝電や祝福の想念を頂きました全国会員の皆様、陰からご援助頂きましたスペース・ピープルの皆様に大感謝申し上げます。ありがとうございました。

（清水勝一）

第5回 新潟支部大会

●五月二十六日（日）
●新潟厚生年金会館（新潟市）
●出席者　十四名

今回の大会も支部会員の一致した協力により、充実した内容で大成功のうちに終了した。久保田先生の講演は宇宙論と密接に関連した生き方について説いたもので、一時間という限られた時間の中できわめて力強く密度の濃い全力投球の講演が行われました。

その内容は、①宇宙全体余すところなく満ちている「祝福の波動」を感じとって、そのフィーリングを自分自身に表現することが大切。②そのための自己トレーニングの重要性を強調。③アダムスキー氏の説く「万物一体」の思想は、近年ニューサイエンスと呼ばれる科学界の新しい動きによって裏づけられつつあること等が中心となる内容である。続く質疑応答や夕食会でも活発に質問が出され有意義なひと時をすごした。

又、当日の午前中は希望者による観光として県立自然科学館へでかけた。ここは科学と技術の様々な分野をわかりやすく効果的に示した展示物で満ちており、宇宙的フィーリングの感じられる場所です。ここの天文台では制御パネルのボタン操作により、60センチ反射望遠鏡が納められた天体観測設備の稼働する様子が実演されて参加者一同大いに宇宙的フィーリングを楽しんだしだいです。皆様に感謝します。

（星　富治夫）

第5回 旭川札幌合同支部大会

六月二十三日（日）
●旭川ターミナルホテル（旭川市）
●出席者　二十六名

五回目を迎えた合同支部大会は、久保田先生と多数の会員の皆様の出席を頂き、盛況裏に開催されました。

はじめに函館市の会員・坂野美津子さんの講演が行われ、坂野さんはその中で、機関紙や地方支部大会での交流を通して会員の皆さんが真剣に実践されていることを深く感じ、自分も何か「知らせる活動」をやらなければと考え、勤務先小学校で「ＵＦＯクラブ」の設立を思い立ったこと、この活動を通して、子供たちはＵＦＯに強い関心を持っているが、その知識はゆがめられたものが多いこと、更に自分にとっても大変良い勉強となり、今後もＵＦＯに関する正しい知識を伝えていく決心であることなどを話されました。

次に久保田先生が「ＵＦＯ問題と宇宙哲学実践法」と題してご講演になり、①アダムスキー氏の体験を未だに否定する人が少なからず居るが、ＮＡＳＡの著名な科学者が十年あまり前に出版した著書の中で、アダムスキー氏を激賞していること。②ＮＡＳＡから入手した月面写真の中に犬が写っているのを日本の研究家が発見していること。③宇宙的な向上のためには、何といっても万物との一体感を深めることが重要で、そのためには自分の周囲のあらゆるものに対して祝福の想念を放つように努力することが大事であることなどについて語られました。

大会後の夕食会では最後に男女に別れて合唱をするなど、雰囲気は最高に盛り上がり、大変楽しい交流の場となりました。

翌日は、前日の雨が嘘のように晴れ上がり、十五名で十勝岳方面へ観光に出かけ、雄大な北海道の自然を十分に満喫して頂いたことと思います。

忙しい中、出席頂いた久保田先生はじめ、会員の皆様に心からお礼申し上げます。ご協力頂いた両支部の皆様にも感謝いたします。

（阿部　堯）

〈予告〉60年度地方支部大会－その3－

〔11月24日(日) に名古屋支部大会を開催の予定。次号詳報〕

	60年度 大阪支部大会	第6回 山形・仙台合同支部大会	第3回 群馬支部大会	第3回 福岡支部大会
日時	10月6日(日) 午後 1：00→5：00	10月20日(日) 午後 2：00→6：00	11月3日(2日連休の初日) 午後 1：00→5：00	11月17日(第3日曜日) 午後 1：00→5：00
会場と交通	「須磨観光ハウス」1F会議室 ☎ 078 -731-3751 神戸市須磨区西須磨字鉄拐（てつかい）7番地 東京方面からは新幹線新大阪駅下車、国鉄下り快速電車に乗り換えて須磨駅へ。駅前よりタクシー利用(基本料金内)。新大阪駅より所要時間約50分。広島方面からは山陽新幹線西明石駅下車、上り電車で須磨駅へ。西明石駅より所要時間約20分。	「置賜(おいたま)綜合文化センター」2F203研修室 ☎ 0238-21-6111 山形県米沢市金池3-1-14 奥羽本線米沢駅下車徒歩20分、タクシー5分。東京方面からは上野駅より東北新幹線で福島下車、福島より奥羽本線特急に乗り換えて米沢まで40分。上野・米沢間は2時間30分。	「太田グリーンホテル」2F会議室 ☎ 0276-25-8511 東武線太田駅下車、徒歩15分。タクシー約500円。東京浅草と太田間は急行ロマンスカーにて1時間45分。	「福岡商工会議所」5F 501号会議室 ☎ 092-441-1111 福岡市博多区博多駅前2丁目9番28号 博多駅(博多口)より北へ徒歩7分。博多区役所のとなり。
会費	¥2000（希望者のみ全員記念写真代¥800 を別納。グランドキャビネ判、送料共）	左に同じ	左に同じ	左に同じ
プログラム	1:00 支部代表挨拶 平塚和義 1:10 講演「アダムスキー問題の意義」久保田八郎先生 2:25 休憩、記念撮影 3:00 全員自己紹介、質疑 5:00 閉会	司会 柴田文子 2:00 支部代表挨拶 清水正、笠原弘可 2:20 講演「アダムスキー哲学の生かし方」久保田八郎先生 3:30 休憩、記念撮影 4:30 全員自己紹介、質疑 6:00 閉会	1:00 支部代表挨拶 久保寺信一 1:10 講演「GAP活動の意義」久保田八郎先生 2:15 休憩、記念撮影 2:40 全員自己紹介、質疑 5:00 閉会	1:00 支部代表挨拶 喜多正宜 1:10 会員講演（講演者未定） 1:40 講演「コズミック・マンになるためには」久保田八郎先生 3:00 休憩、記念撮影 3:30 自己紹介、質疑 5:00 閉会
夕食会	大会終了後6：00から8：00まで大会会場と同じハウスで希望者による夕食会を開催（着座形式） 会費 ¥5000	大会終了後6：30から8：30まで会場近くの「ニューグランド北陽」で開催。(置賜綜合文化センターの南向かい) 会費 ¥5000	大会終了後6：00から8：00まで大会会場と同じホテル内2Fにて希望者による夕食会を開催。 会費 ¥5000	大会終了後6：00から8：00まで「ライオンズホテル」にて希望者による夕食会（立食パーティー）を開催。 会費 ¥5000
宿舎	「須磨観光ハウス」をお世話します。 和室1泊¥5000、朝食付¥6000（大会会場と同じ場所）	「ビジネスホテル金地」をお世話します。夕食会場の東隣。 1泊お1人様¥3500（シングル・ツイン共） 収容人員は32名まで。	「太田グリーンホテル」をお世話します。 シングル ¥4800(税サ込) ツイン ¥8400（〃）	「ライオンズホテル」をお世話します。 ☎ 092-451-7711 シングル ¥4800 ツイン ¥8500 大会会場より徒歩4分。
申込	夕食会、宿舎、観光の申込はハガキで9月末までに下記へ。 〒661 兵庫県尼崎市水堂町3丁目16-8 平塚和義 ☎ 06-436-3478	夕食会、宿舎、観光の申込はハガキで10月19日までに下記へ。 〒992 山形県米沢市中田町9-1-2、県営中田アパート141号 清水 正 ☎ 0238-37-5635	夕食会、宿舎、観光の申込はハガキで10月末までに下記へ。 〒373 群馬県太田市新井町744-1、 久保寺信一 ☎ 0276-25-5958	夕食会、宿舎、観光の申込はハガキで11月15日までに下記へ。 〒814 福岡市城南区金山団地40-204、 喜多正宜 ☎ 092-863-5438
観光	大会翌日の7日は希望者で近くの鉢伏山へロープウェイで行き、瀬戸内の雄大な景色を見た後、須磨海浜公園内の須磨水族館を見学。その後神戸港に浮かぶ世界最大の人工島ポートアイランド内にある青少年科学館でプラネタリウムと科学展示品等を見学し、午後5時頃、国鉄神戸駅で解散。	大会翌日は山形交通観光バスで上杉の城下町米沢市内観光の予定。好天ならば吾妻山、天元台まで足をのばしてロープウェー登山を行う。朝10：00出発、午後3：30米沢駅着、解散。	大会翌日は榛名富士として有名な上毛3山の一つ榛名山、榛名湖を小型バスで周遊。午後5：00に太田駅着、解散。	大会翌日は福岡市内観光。
備考	10月の月例会は大会のため中止。	10月は大会のため月例会を中止。	11月は大会のため月例会を中止。	11月は月例会を中止。

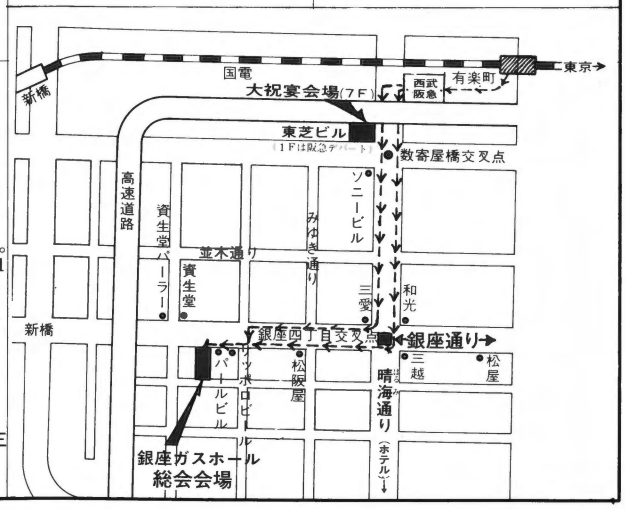
❀❀創立25周年・機関誌90号発行記念❀❀

60年度 日本GAP総会

今年は日本ＧＡＰ創立25周年を迎え、機関誌「UFO contactee」も90号に達した記念すべき年です。よって今度は会場を銀座通りの銀座ガスホールに移して、清新な雰囲気のもとに盛大な総会と大祝宴会を開催することにいたしました。遠路ご足労ですが年１回の大集会に多数ご参加の上、厚き友情と祝福に満ちた宇宙的フィーリングによる楽しい一日をおすごし下さい。役員一同心からお待ちしております。

日本GAP東京本部役員代表　**篠　芳史**

	総　会	大祝宴会	東京都内観光
日時	9月22日(日・2日連休の初日) 午後 1：00→5：00	9月22日 午後 6：00→8：30	9月23日(祭日) 午前 9：00→午後5：00
会場	**東京都中央区銀座7丁目9番15号** **「銀座ガスホール」7Fホール** ☎(03) 573−1871 国電有楽町駅の銀座側下車、駅を背にして右方に歩き、西武デパートと阪急デパートの間の筒抜けを通り抜けて大通りを左へ行くと銀座4丁目の交差点に出るので、そこを右折して銀座中央通りを行き、松坂屋デパートの前を通りすぎて約100mの所に銀座ガスホールがある。入口より奥へ行き、エレベーターで7Fへ行く。徒歩8分	中央区有楽町数寄屋(すきや)橋交叉点角の東芝ビル7F(1Fは阪急)レストラン「四季」 ☎(03) 575−3311 有楽町・数寄屋橋交叉点角まで行き、ソニービルの向かい側の東芝ビルの右手にまわるとエレベーターがあるので、7Fへ行く。 大祝宴会は立食形式。 ※総会当日と翌日は銀座通りは歩行者天国のため自動車は通行止め	団体用大型貸切りバスで「東京ホテル浦島」を出発。 定員　45名。 雨天決行。 (列車・飛行機等の都合により早目に引きあげる方には便宜を図ります)
会費	¥3000(会場受付でご納入下さい。全員記念写真希望者は写真代¥1000、送料200円、計1200円を別途納入して下さい。六つ切、カラー)	¥6000(祝宴会場受付でご納入下さい)	¥2700(この会費のみ事前にご納入下さい。詳細は申込欄を参照)
プログラム	1：00　司会者挨拶　篠　芳史 1：05 ↓ 2：30　講演「宇宙船(円盤・母船)の推進原理の研究発表」(スライド多数使用)　遠藤昭則 2：40 ↓ 4：00　講演「世界のＵＦＯ問題とアダムスキー出現の意義」(スライド多数使用)　日本ＧＡＰ会長　久保田八郎 4：10 ↓ 4：30　出席者全員記念撮影 4：40 ↓ 5：20　日本ＧＡＰ創立25周年と機関誌90号発行のお祝い　本部役員一同 野口氏祝辞、会長挨拶、アダムスキーの声、ロドファー夫人撮影円盤映画映写、花束贈呈、クス玉割り、役員一同挨拶)	6：00　司会者挨拶　篠　芳史 6：05　会長挨拶　久保田八郎 6：10　乾杯　野口敏治 ↓　祝宴・余興多数 8：30　福引あり。 ※終了後、有楽町駅そごうデパート近くの「有楽ビル」地下1F「チボリ苑」にて2次会開催の予定。 11：00まで。希望者は東芝ビル1Fエレベーター前ロビーに集合して下さい。	9：00にホテルを出発→東京駅八重洲口、皇居前広場二重橋→銀座4丁目→東京タワー→六本木繁華街→新宿超高層ビル、その他を周遊。このツアーは重要観光地を重点的に見学し、その都度バスを降りていったん自由行動にするのが特長。なお会費には昼食代は含まれていません。 昼食代は¥1000程度。
申込	9月22日夜の大祝宴会、23日の都内観光、宿舎の希望者は次の要領でお申込下さい。 (1)**大祝宴会**＝ハガキに「大祝宴会出席希望」と記して下記の申込先へ**9月20日**までに(必着)お申込下さい 定員100名 (2)**都内観光**＝これのみは会費¥2700を添えて現金書留で運くとも**9月10日**までに下記へお申込下さい。定員45名。 (3)**宿　舎**＝「東京ホテル浦島」をお世話します。中央区晴海2-5-23、☎03-533-5331 シングル¥5900 ツイン¥11000、希望者はハガキに①宿泊日②シングル、ツインの別③住所・氏名・電話番号を明記の上、下記へ遅くとも**9月15日**までにお申込下さい。 ■**申込先**＝上記(1)〜(3)の申込はすべて下記へ、 **〒150 東京都渋谷区東3−24−9** **サンイーストビル2F、** **ワールドセブントラベル社、田中 正** ☎(03) 499-2461　夜間(0462)63−0615(自宅)		



第7回　日本ＧＡＰ海外研修旅行

エジプト・エルサレム宇宙考古学の旅

■日本ＧＡＰは国際的視野を開くために毎年海外研修旅行を実施して多大の成果をあげてまいりましたが、**昭和60年度は87号に予告した「イギリス・フランス宇宙考古学の旅」を事情により変更して、**標題のとおり、エジプトとイスラエル訪問を行うことにしました。

■ご承知のとおりエジプトは5000年昔からの雄大な巨石文化の跡をとどめており、謎に満ちた遺跡の国で、アトランティス大陸文化の名残りと思われるギザの３大ピラミッドをはじめ、驚異的な石造文明の建築物の充満した大地です。またイスラエルは2000年前に地上最高の栄光と悲運に生きた金星人イエスの土地であり、特にエルサレムにはその最期を物語る遺跡がていねいに保存されています。日本ＧＡＰ会員が一生に一度は見るべき地上最大最高の遺跡として、この２カ国にまさるものはありません。万障お繰り合わせの上、多数ご参加下さい。大体のコースは次のとおりです。

■８月12日(月)午後３時成田空港北ウィングに集合、６時発のエジプト航空機で出発。13日早朝エジプトのカイロ着。同日は国立博物館、ギザの３大ピラミッドやサッカラの階段状ピラミッドなどを見学。カイロ泊後14日午前専用バスにて出発、雄大なシナイ半島を横断、夕刻イスラエルの首都エルサレム着。同夜泊後、15日は専用バスにてエルサレム市内見学。オリーブ山展望台、エレオナ教会、昇天教会、ゲッセマネ庭園、万国民教会、イスラエル博物館その他を視察。翌16日も市内見学を続行。ベツレヘムのイエス生誕の場所、十字架をかついで歩いたビア・ドロローサ（歎きの道）、ゴルゴタの丘跡の聖墳墓教会、大祭司カヤパの官邸跡の鶏鳴教会、イエスが歩いた石段、シオン山の各遺跡等を周遊。17日は専用バスでクムラン洞窟、マッツァダの遺跡、死海での海水浴、１万年前の都市エリコの遺跡、その他を見てティベリア泊。18日朝ティベリア出発、ガリラヤ湖畔の山上の垂訓教会、ナザレの町、聖告知教会、ヤッフォの町等を経て夕方テルアビブより空路カイロへ飛び、夜カイロ泊。19日は終日自由行動。20日朝カイロ発空路アブシンベルへ行き、大神殿と小神殿を見学後空路アスワンへ飛び、アスワンハイダムや古代の石切り場等を見学、夕方ルクソール着後同地泊。21日は朝から専用バスにてメムノンの巨像、ハトシェプト女王葬祭殿、王家の谷、カルナック神殿、ルクソール神殿などの壮大な巨石文化遺跡を視察後、夜は快適な西ドイツ製寝台列車で北上して22日朝カイロ着。終日自由行動。同夜カイロ泊、23日午前カイロ発、日本へ向かい、24日昼12：15成田着という13日間の大旅行です。

■以上を要約しますと最初にエジプト入りして１日をすごし、次にイスラエルへ移動して予定の見学コースを完了し、再度エジプトへ行きます。両国とも数度日本ＧＡＰの海外研修旅行で訪問した経験がありますが、今回はエジプトのアブシンベルとアスワンが加えてあり、しかもカイロで２日の自由行動があるため市街散策や再度ギザのピラミッド見学等が自由にできます。

■両国を数度訪問した経験のあるベテラン添乗員の田中正（ワールドセブントラベル社幹部・日本ＧＡＰ東京本部役員）と、海外団体旅行引率の経験豊富な日本ＧＡＰ会長・久保田八郎によるＧＡＰ独特の家族的雰囲気に満ちた素晴らしい旅を満喫して下さい。現地では優秀な日本人ガイドが案内します。（ＧＡＰ会員でない方も参加できます）

● **期　間**　**昭和60年８月12～24日（13日間）**
（前号発表の日程は変更されました）

● **費　用**　**￥498,000**（60年度は航空運賃・ホテル代等で若干の変動があるかもしれません。24回払いローン利用可能。詳細は案内書をご参照下さい）

● **案内書**　**下記へハガキでお申し込み下さい。**

ワールドセブントラベル株式会社　田中 正（宛）
〒150 東京都渋谷区東3-24-9、サンイーストビル２Ｆ　☎（03）499－2461 / 夜間と休祭日は（0462）63－0615

今年度旅行参加申込者氏名

氏　名	住　所	職　業	氏　名	住　所	職業
大畑　忠	千葉県	国家公務員	河辺宏幸	愛知県	会社員
今西行雄	神戸市	会社員	土居マユミ	札幌市	看護婦
今西正子	〃	小学校教諭	片山ゆう子	熊本市	なし
山内裕理子	北海道	なし	田辺健司	大阪市	研工
大野　仁	長野県	会社員	伊東佐和子	千葉県	デザイナー
仲宗根直子	沖縄県	なし	大沼潤一	茨城県	会社員
高原登茂子	名古屋市	事務	岡部智成	東京	〃
〃　大記	〃	小４	松本隆司	〃	〃
〃　靖暢	〃	小２	佐々木八郎	〃	小学校教諭
堀江健一	千葉県	会社員	斎藤純一	千葉県	会社員

第２次　旅行説明会

上記旅行の第２回目の説明会を下記の要領で開催します。参加申込者と考慮中の方もぜひご出席下さい。７月末までなら申込は間に合います。

と　き　７月28日(日)午後13：00→17：00
ところ　トラベラー商会７Ｆ説明会場
東京都中央区銀座２丁目２番19号
☎(03)563-5461～2

国電有楽町駅下車、銀座側に出て、交通会館を前にして左側面の道路をまっすぐ行き、フードセンターを通り抜けた外堀通りの向かい側。デパート「プランタン」の並び約100m左。（銀座の中央通りではありません）トラベラー商会入口のエレベーターで７Ｆへ。（地図は本誌89号38頁に掲載）

会　費　無料
携行品　パスポート、筆記具
夕食会　説明会終了後、フードセンターの「チボリ苑」で夕食会を開催。

ジョージ・アダムスキー全集

久保田八郎訳　全７巻　B6判・本文上質紙・厚手表紙箱入豪華本

偉大な進化をとげた惑星の人々とコンタクトしたアダムスキーの驚くべき体験と、深遠な宇宙的思想を伝えたこの全集は、人類に宇宙的覚醒と真の生き方を示す最高の指針。UFOと宇宙哲学の研究者必携の名著です。

1. 宇宙からの訪問者
338頁　￥2500

ジョージ・アダムスキーのあまりにも有名な体験記。1952年11月20日に米カリフォルニア州の砂漠で金星人と会見した体験「空飛ぶ円盤は着陸した」を本書の第Ｉ部とし、円盤や母船に乗り、多数の異星人と会見した実録を第II部とした驚異的な書物。本全集の中心をなす最重要なもの。

2. UFO問題の真相
262頁　￥2500

第１巻の補遺的なUFOと異星人問題の真相を詳述。特に円盤の推進理論や、聖書とUFOとの関係を述べた箇所は重要である。第II部はアダムスキーの世界講演旅行記。各国のGAPグループの活動と反応や、サイレンス・グループの卑劣な妨害が克明に描写されている。

3. UFOとアダムスキー
350頁　￥2500

アダムスキーが実際に体験した母船による宇宙旅行を詳細に述べた「金星旅行記」と「土星旅行記」から成る本書第Ｉ部「死と空間を超えて」が圧巻。またアダムスキーが存命中に日本GAP会長・久保田八郎に送り続けたぼう大な情報と書簡類を収録して第II部とした。

4. 宇　宙　哲　学
148頁　￥1300

人間のセンス・マインド（肉体の心）と宇宙の意識との一体化を中心思想として、人間を進化させる方法を明快に理路整然と説く。この哲学は、人間の意識と物質との関係の解明と応用とをめざす21世紀の科学の最先端をゆくもので、アダムスキーの哲学関係三著作の中心となるもの。

5. テレパシー開発法
190頁　￥1800

人間に内在する宇宙的な能力のうち、テレパシー能力の開発法を説明したもの。特に目・耳・鼻・口の４官をコントロールして、内部の意識から来るテレパシックな印象を感受する方法を詳しく解説し、他人と無言の会話を行う技術を述べた、類書の全く存在しないガイドブック。

6. 生　命　の　科　学
205頁　￥1800

アダムスキーが他界する数年前に出したScience of Lifeと題する12分冊の講座を和訳して一書にまとめたもの。アダムスキーの宇宙的哲学の総まとめ的な一大金字塔で、真実のテレパシーと心霊的な霊界通信の相違を明確にし、心霊現象への接近を警告する画期的な書。

7. アダムスキー論説集
370頁　￥2500

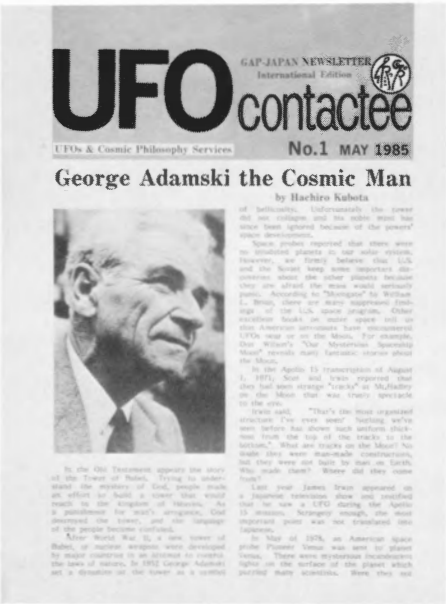
日本GAP機関誌に掲載されたのみで、単行本化されていなかったアダムスキーの論説や講演録等を網羅編さんしたもの。特に死去する直前の最後の講演が圧巻。第II部にはアダムスキー研究家として名高い久保田八郎が数度渡米してアダムスキーの高弟たちとインタビューした記事を収録。アダムスキーの偉大な面が描写されている。

※送料は各巻￥250。但し発行所宛直接注文の場合に限り、下記のように定価・送料をサービス。

郵便振替または現金書留でご注文下さい。

☆１冊注文＝送料は出版社負担。書籍代のみご送金下さい。
☆第１巻より第３巻まで一括注文＝特別セット価格　￥7000（送料共）
☆第４巻より第７巻まで一括注文＝特別セット価格　￥6500（送料共）
☆第１巻より第７巻まで一括注文＝全巻セット価格　￥13000（送料共）

文久書林　〒162　東京都新宿区榎町33　Tel. 03(267)6920　振替 東京4-2521



英文版「UFO contactee」No. 1 刊行中

■去る５月に発刊された英文版は早くも国際的に高い評価を得つつあり、日本GAPの活動状況と日本国内における主要なUFO出現事件の海外向け紹介に重要な役割を果たすに至った。
■日本GAP・久保田八郎会長が書きおろした格調高い英文記事「George Adamski the Cosmic Man」、「Adamski-Type Flying Saucer Comes Down In Takamatsu, Japan!」にダニエル・ロス氏の「UFOs And American Indians」を加え、最後に日本GAPの活動内容を伝えた本格的機関誌。
■会長みずからプロ用大型電子英文タイプライターを操作してオフセット版下を作成。デザイン、レイアウトから１字１句に至るまで会長が熱意をこめて作った、この記念すべき創刊号をぜひ机上に。英語学習用にも好適。本文中不明の点は返信用切手同封の上、会長宛質問されたい（ただし全訳文の請求には応じかねます）。

Ｂ５判　12頁　最上質アート紙使用　￥300　送料￥170（５冊まで￥240、10冊まで￥350）注文は必ず郵便振替で下記へ（現金書留、切手代用は不可）。

日本GAP　振替・東京4-35912　☎(03)651-0958

日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日　　時	会　　場	会費	携行品・行事
東京本部	毎月第2土曜日 午後2：00→6：30 ※8月のみは第1土曜日(3日)に中央区立中央会館に変更。9月の月例会は中止。詳細は編集後記に。	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。☎03－828－2111。国電「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいスグ。 連絡先＝日本GAP ☎ 03－651－0958	¥ 500	2：00→3：00会員による体験講演。 3：00 4：30久保田会長の「テレパシー開発法」講義と近況報告、テレパシー練習、休憩。 4：30→6：00自己紹介、意見発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1：00→5：00 ※10月の月例会は大会のため中止。	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」☎388－7351 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。 連絡先＝平塚和義　☎ 06－436－3478	¥ 200	テキストとして「テレパシー開発法」(文久書林刊)を持参。東京例会における久保田会長の講演テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
新潟支部	毎月第3日曜日 午後1：30→4：00	長岡駅前「パークホテル」2F、ローズルーム　☎ 0258－36－2331 連絡先＝星富治夫　☎ 02579－2－5562 足立亘宏　☎ 0252－62－0968	¥ 200	テキストとして「テレパシー開発法」持参。東京本部例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習、座談会。
福岡支部	毎月第3日曜日 午後1：00→5：00 ※11月は大会のため月例会は中止。	福岡市天神町5丁目1－23「福岡市民会館」3F　国際会議控室 連絡先＝喜多正宣　☎ 092－863－5438	¥ 300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。久保田会長の東京例会における講義録音テープ公開座談と研究発表。テレパシー練習。
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1：00→4：30	名古屋市中区古沢町7－1「名古屋市民会館」特別会議室。☎ 052－331－2141 国鉄・名鉄・地下鉄「金山橋駅」下車。徒歩5分。 連絡先＝林　国宜　☎ 0586－45－6468	¥ 300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表・テレパシー練習・座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1：10→4：20 ※10月の月例会は大会のため中止。	仙台市「市民会館」会議室（西公園内） 連絡先＝笠原弘可　☎0222－95－0725 ※7月と9月は月例会は中止。8月は開催。	¥ 300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。久保田会長の講義録音テープ公開。テレパシー練習座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1：00→5：00 ※10月の月例会は大会のため中止。	山形市小白川町「社会福祉センター」 山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3分。☎ 0236－ 42－5181 連絡先＝清水　正　☎ 0238－37－5635	¥ 200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開、テレパシー練習、研究発表、座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1：00→4：30 ※8月のみは　13：00→16：00	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室　☎ 011－271－5821 連絡先＝高野省志　☎ 011－822－8260	¥ 500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。久保田会長の講演録音テープを公開、テレパシー練習・座談会。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1：00→5：00	静岡市駿府町「静岡県婦人会館」会議室 ☎ 0542－54－5221 連絡先＝野口敏治　☎ 0542－86－7729	¥ 200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京本部例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレパシー練習、研究発表。
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1：00→5：00	旭川市6条通4丁目「勤労者福祉会館」2F小会議室　☎ 0166－26－1304 連絡先＝阿部　堯 ☎ 01658－2－1585	¥ 500	東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。研究発表、アダムスキー著「テレパシー開発法」「生命の科学」を持参。質疑応答、テレパシー練習、研究発表。
松山支部	毎月第4日曜日 午後1：00→5：00 ※奇数月は広島市広島駅ビル内「ステーションホテル」5F会議室。 ※偶数月は松山市民会館会議室。	松山市民会館会議室 連絡先＝伊藤達夫 ☎ 0898－22－3060 ※9月は東京総会のため月例会は中止。	¥ 200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープ公開。質疑応答・座談会。
群馬支部	毎月第2日曜日 午後1：00→5：00 ※11月は大会のため月例会は中止。	群馬県太田市「社会教育総合センター」3F　連絡先＝久保寺信一 店　＝☎ 0276－25－5958 自宅＝☎ 0276－45－3544	¥ 200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開、座談会。
青森支部	毎月第3日曜日 午後1：00→5：00	青森市堤町1丁目4－1「青森市文化会館」会議室　☎ 0177－73－7300 連絡先＝田村嘉彦　☎ 0177－38－0416	¥ 300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。テレパシー練習、研究発表・座談会。
沖縄支部	毎月第3日曜日 午後1：00→6：00	〒901-22　宜野湾市野嵩1547　マキシアパート　新里方 連絡先＝新里義雄 ☎ 09889－3－3695	¥ 500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。久保田先生による講演録音解説テープ公開。質疑応答。想念観察とテレパシーの研究報告。自己紹介座談会等。
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1：00→5：00	秋田市八橋運動公園1－2「中央公民館」趣味の間。☎ 0188－24－5377 連絡先＝伊藤正治　☎ 0188－62－2831	¥ 200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開。テレパシー練習。座談会。
神奈川支部	毎月第3日曜日 午後1：00→5：00	神奈川県川崎市川崎区富士見2－5－2「川崎市立労働会館」第1研修室 ☎ 044－222－4416。国鉄京浜急行「川崎駅」下車。市バス・ふ頭線・労働会館前。 連絡先＝大崎孝典　☎ 0492－65－0389	¥ 500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープ公開。研究発表・座談会等。
茨城支部	毎月第3日曜日 午後2：00→5：00	水戸市梅香1－2「水戸市中央公民館」4F小集会室　☎ 0292－24－6600 水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先＝清水勝一　☎ 0292－73－1903	¥ 300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレパシー練習、座談会、研究発表等。
長野支部	毎月第4日曜日 午後1：30→5：00 ※9月は総会のため中止。 10月は第3日曜日に開催。	塩尻市大門7番町「塩尻市総合文化センター」第1会議室。☎ 0263－54－1253 塩尻駅下車、徒歩10分。 連絡先＝大野　仁　☎ 0265－78－8504	¥ 300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田先生の講演録音テープ公開。テレパシー練習、座談会、研究発表等。
紀南会	毎月第4日曜日 午後1：00→5：00 ※9月のみは第5日曜日に変更。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室　☎ 0735－21－2760　国鉄新宮駅下車、徒歩5分。連絡先＝松口幸之助 昼＝☎ 0735－22－3641 夜＝☎ 0735－34－0605（呼、田中）	¥ 300	テキストとして「宇宙からの訪問者」「テレパシー開発法」を持参。東京本部月例会における久保田先生の講演録音テープ公開。テレパシー練習、質疑応答、座談会。

★本誌バックナンバー（旧号）★

わが国でアダムスキー問題を正しく伝える唯一の文献である本誌は後世に残る貴重な資料となるものです。ぜひおそろえ下さい。下記以外の旧号も残っています。お問合せ下さい。

No.87 主要記事「月と地球は空洞のコアをもつ天体か」ウィリアム・ブライアン／「宇宙から来る訪問者たちは地球人を指導しようとする」ジェニー・アベ／「絶対に真実であったアダムスキーの体験」遠藤昭則／「丸窓の並んだ母船が出現！」後藤澄子／「二十一世紀の地球」松原真弓／「異星人イエスの足跡を訪ねて」久保田八郎

No.88 主要記事「驚異の高松市円盤降下事件！」伊藤達夫／「人工衛星による写真と地球上の異様な発見物」ウィリアム・ブライアン／「米政府はUFO問題の真相を公開せよ」ダニエル・ロス／「太田市上空に頻出するUFO」久保寺信一／「不思議な予知夢の実現」内藤重雄／「テレパシー開発基礎トレーニング」久保田八郎

No.89 主要記事「八ケ岳に出現した円盤」秋山京子／「富士山麓にUFO頻出」高梨和明／「金星文字解読研究」遠藤昭則／「ノアの箱舟とアブラハム」久保田八郎／「アステロイド帯と月のクレーター」ウィリアム・ブライアン

各 ￥700
バックナンバーに限り送料は不要

「テレパシー開発法」解説講義録音テープ

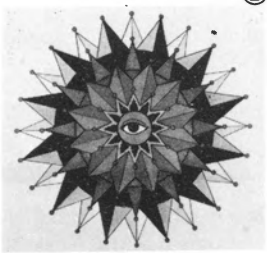
昭和60年1月より1年間にわたって東京月例研究会で毎月1～2章ずつ日本GAP会長・久保田八郎先生が解説される録音テープです。アダムスキーの宇宙的哲学の中心をなすテレパシー開発は、宇宙的人間になるための重要な条件。平易な解説と深遠な内容をぜひお聴き下さい。各支部月例会用の必須のテープ

テープ1本（90分）　￥1000　〒200

※このテープは日本GAPでは取扱いませんので、××月分と記して必ず下記へご注文下さい（第1章より在庫）。

〒430 静岡県浜松市寺島町221、小島国弘
TEL. 0534-52-8502／振替名古屋7-51065

①



②

①オーソン肖像写真　②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。（キャビネ判・カラー写真）

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は“すべてを見透す眼”で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド（心）の発達状態をあらわしている。（サービス判・カラー）

上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①￥600〒120　②￥300〒60一括注文の場合〒120

③ゼナーカード（テレパシー練習用）

アメリカで開発されて世界的に広まったテレパシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。
美麗箱入り。
￥600 〒120

本誌とじ込み用 バインダー

濃紺地に金色の誌名背文字入り豪華版。1個に本誌12冊がとじ込めるので保存用に最適。1個￥600 郵便小包送料は重量と距離により多種類の差がありますので、希望者はハガキで個数を明記の上ご注文下さい。代金あと払いでお送りします。

日本GAP

編集後記

●「朝霧高原の不思議な〝月〟」は本当に不思議な話で、多数の目撃者もいますから出現していたことは間違いありません。しかもこの〝事件〟には記事に書ききれない裏話が色々とあったようです。これと類似の出来事が旭川にも発生しており、石川晴道（公一）氏が「旭川にも月擬装UFO出現」と題する興味深い報告をよせられました。

●「尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船」は十一年前の旧聞に属するほうですが、内容は今も新鮮で驚異的です。ご存知ない方々のために掲載しました。

●「人間の想念に応答する植物」も興味深く、「イエスと転生」は測り知れぬ深遠な宇宙的カルマの問題を提示しています。

●「ムーンゲート」は大好評裡に本号で完結しました。長くご愛読頂き感謝します。

●「アダムスキー問題の真実性と宇宙哲学実践法」は、創刊90号記念として書きおろしたものですが、各地支部大会での講演の骨子も組み込まれています。書店で初めて本誌を発見した人のための入門的な解説ですが、宇宙哲学実践法はベテラン会員の方々にも有益ではないかと自負します。

●英文版Uコンを好評発行中です。39頁の広告をご参照の上、ふるってご注文下さい。

●八月の「エジプト・エルサレム宇宙考古学の旅」は38頁の中間報告のように二十名に達しています。七月末までの申込なら間に合いますので、至急にワールドセブントラベル社の田中氏宛まず電話でご連絡下さい。

●九月二十二日の今年度総会も二カ月後に迫りました。今年は銀座ガスホールで趣向を変えて盛大に開催します。参加希望者は37頁の予告をご覧の上、早目にお申込下さい。

●次号には89号の記事「ノアの箱舟とアブラハム」の最後に短く紹介した、昭和初期に円盤に乗せられてエジプトやその他の場所を見てまわったという驚異的実話「円盤に乗った日本人少年」を掲載します。ご期待下さい。

会費切れの方は早目にご納入のほどを。

●本誌は約百名のボランティアーの方々により都内と全国主要都市の書店に直接卸されています。宇宙的カルマをもつ人の発掘とスペース・プログラムに協力の意味で書店卸しにご協力下さる方はご一報下さい。説明書をお送りします。

●読者からの原稿を募集しています。四百字詰原稿用紙に万年筆またはボールペンでタテ書きにし、一行を十八字で書いて下さい。エン筆書きは不可。枚数制限なし。採用分に薄謝を呈します。

●次号は十月二十日発行です。

●東京月例会は八月のみは第一土曜日（三日）に変更し、会場も東京文化会館から中央区立中央会館（電話03＝542＝8585）に変わりますのでご注意下さい。場所は次のとおりです。

国電有楽町駅の銀座側に出て交通会館を前にして左側面の道路を前方に直進すると外堀通りに出るので更に横断して直進し、銀座の中央通りを横断して昭和通りを歩道橋で横断して直進すると、まもなく右側に中央会館があります。有楽町駅から徒歩約十五分、まっすぐ直進するだけです。エレベーターで七階

●九月は総会のため月例会は中止、十月より再び上野の文化会館で開催します。

（K）

会員募集

日本GAPはUFO研究界の大先駆者・久保田八郎が故アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究大集団！
多数の会員と共に宇宙的人間を目指そう！
入会案内書をハガキで日本GAPへ申し込もう！

—日本GAP—

日本GAP機関誌・季刊　秋季号
UFO contactee 90号
編集発行人　久保田八郎
発行所　日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色町365—511
TEL（03）651-0958
振替東京4-35912
一九八五年七月二十日発行
定価七〇〇円・送料200円